

# 特 記 仕 様 書 （改修工事）

## I 工 事 概 要

1. 工 事 名 執務室改修工事
2. 工事場所 筑西市直井 1076 番地
3. 敷地面積 14,912.00 m<sup>2</sup>
4. 建設工事その他概要（建物名称、構造、階数、建築面積、延べ面積、等）

(1) 工事範囲 ※図示

(2) 建物概要

(全体)

建物名称	消防署(*工事対象-執務室)		
構 造	鉄筋コンクリート一部鉄骨造	造 一 部 造	造 一 部 造
階 数	地上 3 階	地上 階 地下 階	地上 階 地下 階
建築面積	2,614.59 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
延べ面積	5486.03 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>

### 5. 別途工事

- ・電気工事
- ・機械設備工事
- ・
- ・

---

(H12. 04. 01 作成)	(H17. 05. 15 改定)	(H25. 05. 15 改定)	(H31. 04. 25 改定)
(H13. 10. 01 改定)	(H17. 10. 01 改定)	(H26. 05. 15 改定)	(R02. 04. 30 改定)
(H14. 05. 30 改定)	(H18. 05. 15 改定)	(H27. 05. 15 改定)	(R03. 04. 30 改定)
(H15. 06. 01 改定)	(H19. 07. 01 改定)	(H28. 04. 25 改定)	(R04. 05. 15 改定)
(H15. 09. 01 改定)	(H23. 06. 01 改定)	(H29. 04. 25 改定)	
(H16. 05. 15 改定)	(H24. 06. 01 改定)	(H30. 04. 25 改定)	

## Ⅱ 建築改修工事仕様

### 1. 共通仕様

- (1) 図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、☐を付けたものを適用する。
- ☐ 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）
  - ☐ 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）（以下、「標準仕様書」という。）
  - ☐ 建築工事標準詳細図（平成28年版）（以下、「標準詳細図」という。）
- ・ 建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事特記仕様書を適用する。
- (3) 本特記仕様書の表記
- 1) 項目は、番号に☐のついたものを適用する。
  - 2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。・印のみの場合は適用しない。  
◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。  
◎印と☒印の付いた場合は、共に適用する。
  - 3) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
  - 4) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	1 適用区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風圧力 風速 (<math>V_0 = 15 \text{ m/s}</math>) 地表面粗度区分 ( ◎ I      ・ II      ・ III      ・ IV )</li> <li>・ 積雪荷重 平成 12 年 5 月 31 日建設省告示第 1455 号における区域 別表 (      )</li> </ul> </li> <li>・ 大地震動時の非構造部材の変形追従性能を確認する場合の層間変形角 ・ 1/200      ◎1/150      ・ 1/120      ・      ・ 図示 (      ) 確認箇所 (      )</li> </ul>
	2 環境への配慮	<p style="text-align: right;">[1. 4. 1]</p> <p>◎ (1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。</p> <p>①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。</p> <p>②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。</p> <p>③接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等）を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。</p> <p>④①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。</p> <p>◎ (2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。</p> <p>①建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発生散建築材料以外の材料</p> <p>②建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p> <p>③建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第三種ホルムアルデヒド発生散建築材料</p> <p>④建築基準法施行令第 20 条の 7 第 3 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p>
	3 材料の品質等	<p style="text-align: right;">[1. 4. 2]</p> <p>◎ (1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。</p> <p>◎ (2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。</p> <p>◎ (3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p> <p>◎ (4) 本工事に使用する材料のうち、(5) に指定する材料の製造業者等は、次の①から⑥のすべての事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。</p> <p>①品質及び性能に関する試験データを整備していること。</p> <p>②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。</p> <p>③安定的な供給が可能であること。</p> <p>④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。</p> <p>⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。</p> <p>⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。</p>

章

1

一般共通事項

項目

3

材料の品質等

特記事項

◎（５）製造業者等に関する資料の提出を求める材料  
無収縮グラウト材、乾式保護材、ポリマーセメントモルタル、既調合モルタル、錠前類、クローザ類、自動扉機構、防水剤、既調合目地材、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、移動間仕切、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、ルーフトレン、吸水調整材、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、可動間仕切、トップライト、鋳鉄製ふた

◎（６）「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたりサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。  
「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成 12 年法律第 100 号）」に基づく「令和 4 年度茨城県グリーン購入推進方針」に定める「特定調達品目」の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努めるものとする。

◎（７）上記の条件を満たすものが県産品で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。なお、県産品とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。  
ただし、県産品のうち木材については、県内の森林から合法的に産出された木材を使用することとし、「いばらき優良木材証明制度」に基づく証明書など、県産木材であることが確認できる資料を提出して監督員の承諾を受けることとする。

項目

4

室内空気中の化学物質の濃度測定

[1.6.9]

室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン（学校施設については、パラジクロロベンゼンに対しても対象とする。）の濃度を測定し、測定結果を監督員に報告すること。

採取方法及び測定方法は、厚生労働省が示した室内空気中化学物質の標準的な方法とし、ホルムアルデヒドの測定方法は、ジニトロフェニルヒドラジン（DNPH）誘導体化固相吸着／溶媒抽出－高速液体クロマトグラフ法により、その他の揮発性有機化合物の測定方法は、固相吸着／溶媒抽出法とガスクロマトグラフ／質量分析法の組み合わせにより行い、パッシブ型採取機器により行うこと。

測定対象室は、平成 15 年 4 月 1 日通知「官庁営繕部における平成 15 年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」に準じ、下表の数を標準とする。（指針値は、付記事項の 7 を参照）

室の床面積 A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A
測定箇所数	1	2	3	4

室内空気中の化学物質の濃度測定対象室箇所数表

室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数
玄関ホール		2
集会室		2

着工前の測定 ・ 行う

章	項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	5 埋設配管・配線埋設配管・配線	<p>◎あと施工アンカー工事 8章〈あと施工アンカー〉による</p> <p>コア抜き、はつり工事等 ※既存資料調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探査機（電磁誘導法又は電磁波レーダー法）による探査 配管・配線等の位置の墨出を行う 範囲 ※図示</li> <li>・放射線透過試験 労働安全衛生法、「電離放射線障害防止規制」（昭和47年労働省令第41号）等に定めるところによるほか、次による。</li> </ul> <p>◎(1) 作業主任者は、エックス線作業主任者の資格を有するものとし、資格を証明する資料を監督員に提出する。</p> <p>◎(2) 放射線照射量は最小限のものとし、照射中は人体に影響のない程度まで照射器より離れる。また、作業員以外の立入禁止措置を講ずる。</p> <p>◎(3) 露出時間は、コンクリートの厚さ等により、適宜調整する。</p> <p>◎(4) 付近にフィルム、磁気ディスク等放射線の影響を受けるものの有無を確認する。</p> <p>◎(5) 躯体の墨出しは、表裏でズレがないように措置を講ずる。</p> <p>撮影枚数 6 枚 フィルムサイズ コンクリート厚さ 15 cm</p>
	6 リサイクルの優先順位	<p>◎(1) 発生抑制の徹底 ◎ (2) 現場分別の徹底 (3) 再使用の徹底 (4) 再資源化・再生資材利用の徹底 ◎ (5) 適正処理の徹底 (再資源化に係る作成書類は、付記事項の6を参照)</p>
	7 発生材の処理等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発注者に引渡しを要するもの ※なし ・あり 処理方法 ( )</li> <li>・特別管理産業廃棄物 ※なし ・あり 処理方法 ( )</li> <li>・現場での再利用を図るもの ※なし ・あり 品 目 ( )</li> </ul>

章	項 目		特 記 事 項				
1 一般共通事項	8	技能士	[1.6.2]				
			工事項目	技能検定職種	技能検定作業		
			仮設工事	とび	◎とび作業		
			防水改修工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ◎ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業		
					外壁改修工事	左官	・左官作業
						タイル張り	◎タイル張り作業
						樹脂接着剤注入施工	◎樹脂接着剤注入工事作業
						塗装	◎建築塗装作業
					建具改修工事	サッシ施工	◎ビル用サッシ施工作業
						ガラス施工	◎ガラス工事作業
			自動ドア施工	・自動ドア施工作業			
			内装改修工事	内装仕上施工	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ◎カーペット系床仕上げ作業 ・木質系床仕上げ工事作業 ◎ボード仕上げ工事作業 ◎鋼製下地工事作業 ◎化粧フィルム工事作業		
					建築大工	◎大工工事作業	
					表装	◎壁装作業	
					塗装改修工事	塗装	・建築塗装作業
			耐震改修工事	鉄筋施工	・鉄筋組立て作業		
				型枠施工	・型枠工事作業		
				とび	・とび作業		
				コンクリート圧送施工	・コンクリート圧送工事作業		
			コンクリートブロック・ALC パネル・押出成形セ メント板工事	ブロック建築	・コンクリートブロック工事作業		
				E-ILシーパ ー施工	◎E-ILシーパ ー工事作業		
			石工事	石材施工	・石張り作業		
			舗装工事	路面標示施工	・溶融E-INTハンドマーカー工事作業 ・加熱E-INTマシンマーカー工事作業		
			植栽工事	造園	・造園工事作業		
			屋根及びとい工事	建築板金	・内外装板金作業		
				かわらぶき	・かわらぶき作業		
			9	施工図等の取扱い	◎施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。		
10	既存部分との取合い	◎工事中に取合部その他本工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は、原型に復する。					
11	設備工事との取合い	◎設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。					
12	他工事又は他工種との取合い	◎工事区分表による。これにより難しい場合は監督員と協議する。					

章	項 目	特 記 事 項																			
1 一般共通事項	13 完成図等	[1.8.1～1.8.3] [表1.8.1] ※完成図      ※作成する      ・作成しない 提出するもの      ・原図      ◎製本      3 部      ※CAD データ (JWW 形式) サイズ      ◎A1      ・A2      ◎A3 ※CD-R      完成図 (JWW 形式)、完成写真 (JPEG 形式) を収録したもの ・維持保全に関する資料 (部数      ※1部)																			
	14 引渡物	※鍵は1カ所につき、3個を1組とし、プラスチック札に室名を記入して提出する。 ※マスター鍵は、1組3個とし、木製及び金属製建具共通とする。 ※スチール製キーボックス																			
	15 提出書類	※写真 <table><tr><th>適用</th><th>内容</th><th>枚数</th><th>部数</th><th>備考</th></tr><tr><td>※</td><td>工事写真</td><td>適宜</td><td>1</td><td>電子納品</td></tr><tr><td>※</td><td>完成写真 (支払用：内外観)</td><td>各2枚以上</td><td>1</td><td>A4 版</td></tr><tr><td>・</td><td>完成写真 (・データ共)</td><td>適宜</td><td>2</td><td>カラー印画紙に裱装 アルバム綴じ</td></tr></table> <p>アルバムは黒表紙金文字入りでサイズはH320 X W300 程度とする 完成写真 (アルバム) の撮影業者 ※建築完成写真の撮影実績のある者で、監督員が承諾する撮影業者</p> ※規格品証明書 (原品証明書、同等品試験証明書、試験成績書等) ・鉄筋圧接部の外観試験報告書 ・鉄筋圧接部の超音波探傷試験報告書又は引張試験報告書 ・機械式継手部の試験結果報告書 ・溶接継手部の試験結果報告書 ・フレッシュコンクリート試験報告書 (監督員の承諾を受けたものを除く) ・コンクリート強度試験報告書 (監督員の承諾を受けたものを除く) ・構造体コンクリートにおける部材の位置及び断面寸法の許容差出来高管理記録 ・鉄骨工事における建入れ施工管理記録 ・シーリング試験結果報告書 (試験成績書) ・防水保証書 (3-5. 6. 7. 8は10年) ・タイル工事における接着力試験報告書 ・木材の含水率試験報告書 ・防腐、防蟻処理 (証明書等) ◎あと施工アンカー引張試験結果報告書 (監督員の承諾を受けたものを除く) ・連続繊維補強材の強度試験結果報告書 ・カーテンウォール工事における品質管理記録 ・舗装改修工事における各種試験結果記録 ・工事実績情報の登録内容確認書の写し ※火災保険等 (法定外の労災保険を含む) に加入したことを証明できる書類 ※建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書の写し ※施工体制台帳の写し ※施工体系図の写し ◎産業廃棄物処理関係書類 (産業廃棄物運搬委託契約書及び許可書の写し、産業廃棄物 処理委託契約書及び許可書の写し等) ◎産業廃棄物管理票 (マニフェスト) の写し ◎室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定報告書 ※建設副産物実態調査に関する出力調査票 ※その他      監督員が必要と認め、指示した書類及び部数	適用	内容	枚数	部数	備考	※	工事写真	適宜	1	電子納品	※	完成写真 (支払用：内外観)	各2枚以上	1	A4 版	・	完成写真 (・データ共)	適宜	2
適用	内容	枚数	部数	備考																	
※	工事写真	適宜	1	電子納品																	
※	完成写真 (支払用：内外観)	各2枚以上	1	A4 版																	
・	完成写真 (・データ共)	適宜	2	カラー印画紙に裱装 アルバム綴じ																	

章	項 目	特 記 事 項
1 一般共通事項	16 埋蔵文化財	<p>※文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内</p> <p>※掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、教育庁文化課担当と協議を行うこと。</p> <p>※掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。</p>
	17 石綿事前調査・表示等	<p>※事前調査</p> <p>建築物等を解体し、改造し、又は補修する作業を伴う工事を行う際は、大気汚染防止法・石綿障害予防規則に基づき、事前調査を実施し、調査結果を監督員に提出すること。</p> <p>※資料 （ アスベスト分析結果報告書 （株）環境公害分析センター ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前調査を実施する者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定建築物石綿含有建材調査者及び一般建築物石綿含有建材調査者又はこれらの者と同等以上の能力を有すると認められる者</li> </ul> </li> </ul> <p>※表示及び掲示</p> <p>改修標準仕様書 9.1.2(6)により、必要な表示及び掲示を行うこと。</p> <p>※官公庁への手続き</p> <p>大気汚染防止法・労働安全衛生法等に基づき、必要な届出手続等を行うこと。その際、届出等内容について、あらかじめ監督員に報告すること。</p>



章	項 目	特 記 事 項
2 仮設工事	1 騒音・粉じん等の対策	[2. 1. 3] ・ 防音パネル      ◎防音シート 防音パネル等を取り付ける足場等の設置範囲 ・
	2 足場	[2. 2. 1] [表 2. 2. 1] 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙 1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における 2 の（2）手すり据置き方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行う。 外部足場      ◎設置する（設置範囲      ・ 図示      ・      ） ・ 設置しない 防護シート ◎設置する（設置範囲      ・ 図示      ・      ） ・ 設置しない 内部足場      ◎設置する（※脚立、足場板等      ・      ） ・ 設置しない 材料、撤去材等の運搬方法 種別      （・ A 種      ・ B 種      ◎C 種      ・ D 種      ・ E 種） C 種：利用可能なエレベーター      （      ） D 種：利用可能な階段      （      有      ）
	3 既存部分の養生	[2. 3. 1] 1）養生の方法等 ・ 既存部分      養生の方法（※ビニルシート、合板      ・      ） ・ 既存家具、既存設備等      養生の方法（※ビニルシート等      ・      ） ◎既存ブラインド、カーテン等      養生の方法（・ ビニルシート等      ・      ） 保管場所      （・ 図示      ・      ） ◎備品、机、ロッカー等の移動      （・ 図示      ・      ） 2）既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
	4 監督員事務所	[2. 4. 1] ・ 設ける 規模：      m <sup>2</sup> 程度 仕上げる程度：      程度 備え付ける備品： ・ 机      脚      ・ 椅子      脚      ・ ロッカー      台      ・ 書棚      台 ・ ホワイトボード      ・ 製図板      ・ 掛時計      ・ 寒暖計 ・ ゴム長靴      ・ 雨合羽      ・ 保護帽      ・ 懐中電灯 ・ 安全帯      ・ 受託者加入電話の子機      ・ 暖冷房機 ・ 消火器      ・ 湯沸器      ・ 掃除具 ・ その他（      ） ※設けない
	5 工事用水	構内既存の施設 ・ なし ※あり（◎利用できる（有償）      ※利用できない）
	6 工事用電力	構内既存の施設 ◎なし ※あり（・ 利用できる（有償）      ※利用できない）



章	項 目	特 記 事 項																															
3 防水改修工事	1 施工数量調査	[1. 5. 2] [1. 5. 3] 調査範囲 ◎図示 ・ 調査方法 ・図示 ・ 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ・図示 ・ 調査報告書の提出部数 ◎2 部 ・																															
	2 降雨等に対する養生方法（とい共）	[3. 1. 3] ※改修標準仕様書 3. 1. 3 (5) (ア)～(ウ)による ・																															
	3 既存防水の処理	[3. 2. 3] [3. 2. 4] [3. 2. 6] 既存保護層の撤去 ・行う（範囲 ・図示 ・） ◎行わない 既存防水層の撤去 ・行う（範囲 ・図示 ・） ◎行わない 露出防水層表面の仕上げ塗装撤去 ・行う（・M4AS ・M4ASI ・M4C ・M4DI ・L4X） ・行わない																															
	4 既存下地の処理	[3. 2. 6] 既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※図示 ・ POS 工法及び POSI 工法（機械式固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修及び処理 ※改修標準仕様書 3. 2. 6 (4) (ウ) (g) ①～③による ・ 設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり、丸環の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理 ・図示 ・																															
	5 アスファルト防水	[3. 3. 2～3. 3. 5] 屋根保護防水 防水層の種別 ・ P2A <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>絶縁用シート</th><th>立上り部の保護</th></tr><tr><td>・ A-1 ・ A-2 ・ A-3</td><td></td><td>※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上 ・</td><td>・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・</td></tr></table> ・ P1B <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>絶縁用シート</th><th>立上り部の保護</th></tr><tr><td>・ B-1 ・ B-2 ・ B-3</td><td></td><td>※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上 ・</td><td>・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・</td></tr></table> ・ P2AI <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>絶縁用シート</th><th>立上り部の保護</th></tr><tr><td>・ AI-1 ・ AI-2 ・ AI-3</td><td></td><td>※フラットヤーンクロス 70g/m<sup>2</sup>程度 ・</td><td>・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・</td></tr></table> ・ P1BI <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>絶縁用シート</th><th>立上り部の保護</th></tr><tr><td>・ BI-1 ・ BI-2 ・ BI-3</td><td></td><td>※フラットヤーンクロス 70g/m<sup>2</sup>程度 ・</td><td>・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・</td></tr></table>	種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護	・ A-1 ・ A-2 ・ A-3		※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・	種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3		※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・	種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護	・ AI-1 ・ AI-2 ・ AI-3		※フラットヤーンクロス 70g/m <sup>2</sup> 程度 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・	種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護	・ BI-1 ・ BI-2 ・ BI-3		※フラットヤーンクロス 70g/m <sup>2</sup> 程度 ・
種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護																														
・ A-1 ・ A-2 ・ A-3		※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・																														
種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護																														
・ B-1 ・ B-2 ・ B-3		※ポリエチレンフィルム厚さ 0. 15mm 以上 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・																														
種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護																														
・ AI-1 ・ AI-2 ・ AI-3		※フラットヤーンクロス 70g/m <sup>2</sup> 程度 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・																														
種別	施工箇所	絶縁用シート	立上り部の保護																														
・ BI-1 ・ BI-2 ・ BI-3		※フラットヤーンクロス 70g/m <sup>2</sup> 程度 ・	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え ※JIS R 1250 ・																														

章	項 目	特 記 事 項								
3 防水改修工事	5 アスファルト防水	P2AI 及び P1BI における断熱材 [9. 2. 1～9. 2. 3] (種類) JIS A 9521 に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3 種 bA (スキン層付き) (厚さ) ・ 25 mm ・ 50 mm ・ 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書 表 3. 3. 3～表 3. 3. 9 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ( ) 材料構成による区分 ※R 種 厚さ ( ) mm 以上 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書 表 3. 3. 3 から表 3. 3. 9 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ( ) 材料構成による区分 ※R 種 厚さ ( ) mm 以上 平場の保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ※水下 80mm 以上 ・ 床タイル貼り ※水下 60mm 以上 ・ 立上り部の保護方法 ・ 乾式保護材 窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。 金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。 (品質・性能及び試験方法) 建築材料等品質性能表による ・ コンクリート押さえ ・ れんが押え (※JIS R 1250) ・ ・ モルタル押え (屋内)  屋根露出防水 防水層の種別 ・ M4C								
		<table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ C-1 ・ C-2 ・ C-3 ・ C-4</td><td></td><td>種類 ・ アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・ 使用量 ※アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・</td><td></td></tr></table>	種別	施工箇所	仕上塗料	備考	・ C-1 ・ C-2 ・ C-3 ・ C-4		種類 ・ アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・ 使用量 ※アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・	
		種別	施工箇所	仕上塗料	備考					
		・ C-1 ・ C-2 ・ C-3 ・ C-4		種類 ・ アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・ 使用量 ※アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・						
		・ M3D ・ POD								
		<table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ D-1 ・ D-2 ・ D-3 ・ D-4</td><td></td><td>種類 ・ アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・ 使用量 ※アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・</td><td>脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない</td></tr></table>	種別	施工箇所	仕上塗料	備考	・ D-1 ・ D-2 ・ D-3 ・ D-4		種類 ・ アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・ 使用量 ※アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
		種別	施工箇所	仕上塗料	備考					
		・ D-1 ・ D-2 ・ D-3 ・ D-4		種類 ・ アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・ 使用量 ※アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない					

章	項 目	特 記 事 項			
3 防水改修工事	5 アスファルト防水	・ PODI      ・ M3DI      ・ M4DI			
		種別	施工箇所	仕上塗料	備考
		・ DI-1 ・ DI-2		種類 ・ アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・ 使用量 ※アスファルトルーフィング 類の製造所の仕様 ・	脱気装置 ・ 設ける      ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける      ・ 設けない
		PODI、M3DI、M4DI における断熱材 改修標準仕様書 3. 3. 2 (9) (種類)                      ・ (厚さ)                      ・ 25 mm                      ・ 高日射反射率防水                      ・ 適用する			[9. 2. 1～9. 2. 3]
		改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書 表 3. 3. 3～表 3. 3. 9 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分                      (                      ) 材料構成による区分                      ※R 種 厚さ                      (                      ) mm以上			
		部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書 表 3. 3. 3～表 3. 3. 9 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分                      (                      ) 材料構成による区分                      ※R 種 厚さ                      (                      ) mm以上			
		絶縁断熱工法の場合のルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示                      ・			
		絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類                      ※アスファルトルーフィング類製造所の指定 設置数量                      ※アスファルトルーフィング類製造所の指定                      ・                      (個)			
		屋内防水 防水層の種類			
		工法	種別	施工箇所	保護層
・ P1E ・ P2E	・ E-1 ・ E-2		・ 設ける ・ 設けない		
・ E-1 の工程 3 を行う部位 (※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位                      ・                      ) 立上り部の押え金物の材質及び形状 ※アルミニウム製 L-30×15×2. 0mm 程度                      ・ 屋根排水溝                      ・ 図示                      ・					

章	項 目	特 記 事 項	
3 防水改修工事	6 改質アスファルトシート防水	[3. 4. 2] [3. 4. 3]	
		屋根露出防水 防水層の種別	
		・ M4AS	
		種別	施工箇所
		仕上塗料	備考
		種類	備考
		・ 改質アスファルトシート製造所の仕様	脱気装置
		・ 使用量	・ 設ける ・ 設けない
		※改質アスファルトシート製造所の仕様	改修用ドレン
		・	・ 設ける ・ 設けない
		・ M3AS	
		種別	施工箇所
		仕上塗料	備考
		種類	備考
		・ 改質アスファルトシート製造所の仕様	脱気装置
		・ 使用量	・ 設ける ・ 設けない
		※改質アスファルトシート製造所の仕様	改修用ドレン
		・	・ 設ける ・ 設けない
		・ POAS	
		種別	施工箇所
		仕上塗料	備考
		種類	備考
		・ 改質アスファルトシート製造所の仕様	脱気装置
		・ 使用量	・ 設ける ・ 設けない
		※改質アスファルトシート製造所の仕様	改修用ドレン
		・	・ 設ける ・ 設けない
		・ M3ASI ・ M4ASI POASI	
		種別	施工箇所
		仕上塗料	備考
		種類	備考
		・ 改質アスファルトシート製造所の仕様	脱気装置
		・ 使用量	・ 設ける ・ 設けない
		※改質アスファルトシート製造所の仕様	改修用ドレン
		・	防湿層
			・ 設ける ・ 設けない
		PODI、M3DI、M4DI における断熱材 [9. 2. 1～9. 2. 3]	
		JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック [3. 4. 2 (3) (ウ)]	
		(種類) ・	
		(厚さ) ・ 25 mm ・ 50 mm	
		高日射反射率防水 ・ 適用する	
		改質アスファルトシートの種類及び厚さ	
		※改修標準仕様書 表 3. 4. 1 から表 3. 4. 3 による	
		・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ	
		用途による区分 ( )	
		材料構成による区分 ※R 種	
		厚さ ( ) mm以上	
		粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ	
		※改修標準仕様書 表 3. 4. 1 から表 3. 4. 3 による	
		・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ	
		用途による区分 ( )	
		材料構成による区分 ※R 種	
		厚さ ( ) mm以上	

章	項 目	特 記 事 項																																																																																																											
3 防水改修工事	6 改質アスファルトシート防水	部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書 表 3. 4. 1 から表 3. 4. 3 による ・ JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ 用途による区分 ( ) 材料構成による区分 ※R 種 厚さ ( ) mm以上  押え金物の材質、形状及び寸法 ※アルミニウム製 L-35×15×2.0 (mm) 程度 ・  絶縁工法及び防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 種類 ※改質アスファルトシート製造所の指定による ・ 設置数量 ※改質アスファルトシート製造所の指定による ・ (個) 絶縁工法の防湿用シート ・ 設置する ・ 設置しない																																																																																																											
	7 合成分子系ルーフィングシート防水	[3. 5. 2～3. 5. 4] [表 3. 5. 1～3. 5. 3]  防水層の種類 ・ POS ・ S4S <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ S-F1</td><td></td><td>種類</td><td>脱気装置</td></tr><tr><td>・ S-F2</td><td></td><td>・ ルーフィングシート製造所の仕様</td><td>・ 設ける ・ 設けない</td></tr><tr><td>・ S-M1</td><td></td><td>・</td><td>改修用ドレン</td></tr><tr><td>・ S-M2</td><td></td><td>使用量</td><td>・ 設ける ・ 設けない</td></tr><tr><td>・ S-M3</td><td></td><td>※ルーフィングシート製造所の仕様</td><td></td></tr></table> ・ S3S <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ S-F1</td><td>・ プレキャストコンクリート 下地</td><td>種類</td><td>脱気装置</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td>・ ルーフィングシート製造所の仕様</td><td>・ 設ける ・ 設けない</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td></td></tr><tr><td>・ S-F2</td><td>・ プレキャストコンクリート 下地</td><td>使用量</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>※ルーフィングシート製造所の仕様</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td></td></tr></table> ・ M4S <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ S-M1</td><td></td><td>種類</td><td>脱気装置</td></tr><tr><td>・ S-M2</td><td></td><td>・ ルーフィングシート製造所の仕様</td><td>・ 設ける ・ 設けない</td></tr><tr><td>・ S-M3</td><td></td><td>・</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>使用量</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>※ルーフィングシート製造所の仕様</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td></td></tr></table> ・ POSI ・ S3SI ・ S4SI ・ M4SI <table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>仕上塗料</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ SI-F1</td><td>・ プレキャストコンクリート 下地</td><td>種類</td><td>脱気装置</td></tr><tr><td>・ SI-F2</td><td>・</td><td>・ ルーフィングシート製造所の仕様</td><td>・ 設ける ・ 設けない</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td>改修用ドレン</td></tr><tr><td>・ SI-M1</td><td></td><td>使用量</td><td>・ 設ける ・ 設けない</td></tr><tr><td>・ SI-M2</td><td></td><td>※ルーフィングシート製造所の仕様</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td></td></tr></table> SI-F1、SI-F2、SI-M1、SI-M2 における断熱材 SI-F1、SI-F2 : JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材 [3. 5. 2(3) (イ) (b)] SI-M1、SI-M2 : JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材 [3. 5. 2(3) (イ) (a)] (種類) ・ (厚さ) ・ 25 mm ・ 50 mm	種別	施工箇所	仕上塗料	備考	・ S-F1		種類	脱気装置	・ S-F2		・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない	・ S-M1		・	改修用ドレン	・ S-M2		使用量	・ 設ける ・ 設けない	・ S-M3		※ルーフィングシート製造所の仕様		種別	施工箇所	仕上塗料	備考	・ S-F1	・ プレキャストコンクリート 下地	種類	脱気装置		・	・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない			・		・ S-F2	・ プレキャストコンクリート 下地	使用量				※ルーフィングシート製造所の仕様				・		種別	施工箇所	仕上塗料	備考	・ S-M1		種類	脱気装置	・ S-M2		・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない	・ S-M3		・				使用量				※ルーフィングシート製造所の仕様				・		種別	施工箇所	仕上塗料	備考	・ SI-F1	・ プレキャストコンクリート 下地	種類	脱気装置	・ SI-F2	・	・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない			・	改修用ドレン	・ SI-M1		使用量	・ 設ける ・ 設けない	・ SI-M2		※ルーフィングシート製造所の仕様				・
種別	施工箇所	仕上塗料	備考																																																																																																										
・ S-F1		種類	脱気装置																																																																																																										
・ S-F2		・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない																																																																																																										
・ S-M1		・	改修用ドレン																																																																																																										
・ S-M2		使用量	・ 設ける ・ 設けない																																																																																																										
・ S-M3		※ルーフィングシート製造所の仕様																																																																																																											
種別	施工箇所	仕上塗料	備考																																																																																																										
・ S-F1	・ プレキャストコンクリート 下地	種類	脱気装置																																																																																																										
	・	・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない																																																																																																										
		・																																																																																																											
・ S-F2	・ プレキャストコンクリート 下地	使用量																																																																																																											
		※ルーフィングシート製造所の仕様																																																																																																											
		・																																																																																																											
種別	施工箇所	仕上塗料	備考																																																																																																										
・ S-M1		種類	脱気装置																																																																																																										
・ S-M2		・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない																																																																																																										
・ S-M3		・																																																																																																											
		使用量																																																																																																											
		※ルーフィングシート製造所の仕様																																																																																																											
		・																																																																																																											
種別	施工箇所	仕上塗料	備考																																																																																																										
・ SI-F1	・ プレキャストコンクリート 下地	種類	脱気装置																																																																																																										
・ SI-F2	・	・ ルーフィングシート製造所の仕様	・ 設ける ・ 設けない																																																																																																										
		・	改修用ドレン																																																																																																										
・ SI-M1		使用量	・ 設ける ・ 設けない																																																																																																										
・ SI-M2		※ルーフィングシート製造所の仕様																																																																																																											
		・																																																																																																											

章	項 目	特 記 事 項										
3 防水改修工事	7 合成分子系ルーフィングシート防水	<p>SI-F1、SI-F2、SI-M1 及び SI-M2 における防湿用フィルム</p> <p>・ 設置する          ・ 設置しない</p> <p>S-M2 または SI-M2 の立上り部の工法</p> <p>・ 接着工法（立上り面のシート暑さ（mm）：※1.5          ）</p> <p>・ 機械的固定工法</p> <p>高日射反射率防水          ・ 適用する</p> <p>屋内防水</p> <p>防水層の種別</p> <table><tr><th rowspan="2">種別</th><th rowspan="2">施工箇所</th><th colspan="2">保護層</th></tr><tr><th>平場のモルタル塗厚（mm）</th><th>立上り部の保護モルタル塗り厚さ</th></tr><tr><td>・ S-C1</td><td></td><td>・</td><td>※7mm 以下 ・</td></tr></table> <p>平場モルタル床塗りににおける床目地の目地割り及び種類</p> <p>目地割り                  ※2 m程度、最大目地間隔 3m 程度          ・</p> <p>目地の種類                  ※押し目地          ・</p> <p>合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ</p> <p>※改修標準仕様書 表 3.5.1～表 3.5.3 による</p> <p>・ JIS A 6008 に基づく種類及び厚さ</p> <p>種類（                  ）          暑さ（                  ） mm</p> <p>絶縁用シートの材質                  ※発泡ポリエチレンシート          ・</p> <p>固定金具の材質及び寸法形状</p> <p>※厚さ 0.4mm 以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの鋼板の片面又は両面に樹脂を積層加工したもの</p> <p>・</p> <p>接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量</p> <p>種類                  ※ルーフィングシート製造所の指定による          ・</p> <p>設置数量                  ※ルーフィングシート製造所の指定による          ・          （個）</p> <p>接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理</p> <p>・ 行う（・図示          ・          ）          ・ 行わない</p> <p>プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別 S-F1、SI-F1 の場合）</p> <p>・ 行う（・図示          ・          ）          ・ 行わない</p> <p>機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け</p> <p>1-1 適用区分による風圧力の（・1          ・1.15          ・1.3）倍の風圧力に対応した工法</p>	種別	施工箇所	保護層		平場のモルタル塗厚（mm）	立上り部の保護モルタル塗り厚さ	・ S-C1		・	※7mm 以下 ・
種別	施工箇所	保護層										
		平場のモルタル塗厚（mm）	立上り部の保護モルタル塗り厚さ									
・ S-C1		・	※7mm 以下 ・									



章	項 目	特 記 事 項			
3 防水改修工事	8 塗膜防水	[3. 6. 2] [3. 6. 3]			
		防水層の種類			
		・ P0X			
		種別	施工箇所	仕上塗料	備考
		・ X-1 ◎X-2 ・		種類 ◎製造所の仕様 ・ 使用量 ※製造所の仕様 ・	脱気装置 ・設ける ◎設けない 改修用ドレン ◎設ける ・設けない
		・ L4X			
		種別	施工箇所	仕上塗料	備考
		※X-2 ・		種類 ◎製造所の仕様 ・ 使用量 ※製造所の仕様 ・	脱気装置 ・設ける ・設けない
		高日射反射率防水 ・適用する			
		ウレタンゴム系塗膜防水 X-1（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量			
		種類	※主材料の製造所の仕様による ・		
		設置数量	※主材料の製造所の仕様による ・ （個）		
		防水層の種類			
		・ P1Y			
種別	施工箇所	各工程数及び各工程の使用量	保護層		
※Y-2 ・		※主材料の製造所の仕様による ・	・設ける ・設けない		
		・ P2Y			
種別	施工箇所	各工程数及び各工程の使用量	保護層		
※Y-2 ・		※主材料の製造所の仕様による ・	・設ける ・設けない		

3

防水改修工事

9

シーリング

[3. 1. 4] [3. 7. 2] [3. 7. 3] [3. 7. 7] [3. 7. 8]

シーリング改修工法の種類

・シーリング充填工法

◎シーリング再充填工法

・拡幅シーリング再充填工法

・ブリッジ工法

ボンドブレーカー張り

エッジング材張り

・適用する

・適用する

・適用しない

・適用しない

シーリング材の種類、施工箇所、目地寸法

下記以外は、改修標準仕様書 表 3. 7. 1 による。

シーリング材の種類（記号）	施工箇所	目地寸法
変性シリコン（Ⅰ）		※改修標準仕様書 3. 7. 3(1) (7)～(9)による ・図示
		※改修標準仕様書 3. 7. 3(1) (7)～(9)による ・図示

シーリング材の接着性試験    ※簡易接着性試験    ・引張接着性試験

10

とい

[3. 8. 2] [3. 8. 3]

といその他の材種

・配管用鋼管

・硬質ポリ塩化ビニル管

・ルーフドレン

とい受金物の材種、形状、取付け間隔

※改修標準仕様書表 3. 8. 2 による

足金物の材種、形状、取付け間隔

※改修標準仕様書表 3. 8. 2 による

多雪地域の場合の軒どいの取付け間隔

※0. 5m 以下

防露材のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法

・図示

鋼管製といの防露巻き

※改修標準仕様書 表 3. 8. 4 による

ルーフドレンの種別その他

種別	材種	張掛け幅
・ろく屋根用（・縦型    ・横型）		・100 mm以上    ・50 mm以上
・バルコニー用		・100 mm以上    ・50 mm以上
・バルコニー中継用		・100 mm以上    ・50 mm以上

たてどい受金物の取付け

※図示    ・SUS

ルーフドレンの取付け

※水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填

・

章	項 目	特 記 事 項
3 防水改修工事	11 アルミニウム製笠木	[3.9.2] [3.9.3]
		<p>種類 ・オープン形式（・押出 250 形 ・押出 300 形 ・押出 350 形）  ・板材折曲げ形（・オープン形式 ・シール形式）  本体幅（ ）mm 板厚 ※2.0mm ・ mm</p> <p>表面処理 種別 （ ）種  色合 ・標準色（・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系  ・ステンカラー）  ・特注色（ ）</p> <p>既存笠木等の撤去 ・行う（範囲 ・図示 ・ ）  ・行わない</p> <p>下地補修の工法 ※図示 ・</p> <p>板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 ・</p> <p>笠木の固定金具の工法等  1-1 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法</p>

章	項 目	特 記 事 項												
4 外壁改修工事（共通事項）	1 施工数量調査	[1. 5. 2] [1. 5. 3] 調査範囲 ・ 外壁改修範囲 ・ 図示の範囲 調査時期 ・ 外壁仕上げ等除去前 ・ 外壁仕上げ等除去後 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリート又はモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。  既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ・ 図示 ・ 調査報告書の部数 ・ 2 部 ・												
	2 可とう性エポキシ樹脂	[4. 2. 2] JIS A 6024 による。												
	3 パテ状エポキシ樹脂	[4. 2. 2] JIS A 6024 による。												
	4 エポキシ樹脂モルタル	[4. 2. 2] JIS A 6024 による。												
	5 ポリマーセメントモルタル	[4. 2. 2] (品質・性能) 建築材料等品質性能表による												
	6 ポリマーセメントスラリー	[4. 2. 2] <table><tr><td>広がり速度 (cm/s)</td><td>長さ変化率 (収縮) (%)</td><td>引張接着性 (材齢 28 日) (N/mm<sup>2</sup>)</td><td>曲げ性能 (材齢 28 日) (N/mm<sup>2</sup>)</td><td>吸水性 (72 時間) (%)</td><td>耐久性(劣化 曲げ強さ) (N/mm<sup>2</sup>)</td></tr><tr><td>3 以上</td><td>3 以下</td><td>0. 5 以上</td><td>5. 0 以上</td><td>15 以下</td><td>5. 0 以上</td></tr></table> 保水係数 0. 35～0. 55 粘調係数 0. 50～1. 00	広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢 28 日) (N/mm <sup>2</sup> )	曲げ性能 (材齢 28 日) (N/mm <sup>2</sup> )	吸水性 (72 時間) (%)	耐久性(劣化 曲げ強さ) (N/mm <sup>2</sup> )	3 以上	3 以下	0. 5 以上	5. 0 以上	15 以下	5. 0 以上
	広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢 28 日) (N/mm <sup>2</sup> )	曲げ性能 (材齢 28 日) (N/mm <sup>2</sup> )	吸水性 (72 時間) (%)	耐久性(劣化 曲げ強さ) (N/mm <sup>2</sup> )								
3 以上	3 以下	0. 5 以上	5. 0 以上	15 以下	5. 0 以上									
7 既調合モルタル	[4. 2. 2] モルタル下地としたタイル工事に使用する張付けモルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。  (品質・性能及び試験方法) 建築材料等品質性能表による													

章	項 目	特 記 事 項																															
4 の 1  外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁改修）	1 ひび割れ部改修工法	<div>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4] [4. 3. 5]</div> <div>・樹脂注入工法</div> <table><thead><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>エポキシ樹脂</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (ml/m)</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>※200～300</td><td>・ 130</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>※200～300</td><td>・ 130</td></tr><tr><td rowspan="4">・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.3 未満</td><td>低</td><td>・ 50～100</td><td>・ 40</td></tr><tr><td>0.3 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>・ 100～200</td><td>・ 70</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>・ 150～250</td><td>・ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・</td></tr></tbody></table> <div>エポキシ樹脂の粘性土による区分 低：低粘度形 中：中粘度形</div> <div>注入状況の確認方法</div> <div>※コアの抜き取りを行う</div> <div>（抜き取り個数 ※長さ 500mmごと及びその端数につき 1 個      ）</div> <div>（抜き取り部の補修方法 ※図示      ）</div> <div>・コアの抜き取りを行わない</div> <div>・Uカットシーリング材充填工法</div> <div>・シーリング材</div> <div>充填材料 ※1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系      ・</div> <div>シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填      ・行う</div> <div>・行わない</div> <div>シーリング材の試験は改修標準仕様書第 3 章 防水改修工事による</div> <div>・可とう性エポキシ樹脂</div> <div>・シール工法</div> <div>・パテ状エポキシ樹脂</div> <div>・可とう性エポキシ樹脂</div>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300	・ 130	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300	・ 130	・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100	・ 40	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200	・ 70	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250	・ 130				・
	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300	・ 130																													
	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300	・ 130																													
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100	・ 40																													
	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200	・ 70																													
	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250	・ 130																													
				・																													
2 欠損部改修工法	<div>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7]</div> <div>※充填工法</div> <div>・エポキシ樹脂モルタル</div> <div>・ポリマーセメントモルタル</div> <div>・</div>																																

章	項 目	特 記 事 項																														
4 の 2 外壁改修工事 (モルタル塗り仕上げ外壁改修)	1 既存モルタル塗りの撤去	・ 行う (※全面 ・ 図示の範囲)																														
	2 ひび割れ部改修工法	<div>[4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5] [4. 4. 6]</div> <div>・ 樹脂注入工法</div> <table><thead><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>エポキシ樹脂</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (ml / m)</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>※200～300 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>※200～300 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td rowspan="4">・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.3 未満</td><td>低</td><td>・ 50～100 ・</td><td>・ 40 ・</td></tr><tr><td>0.3 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>・ 100～200 ・</td><td>・ 70 ・</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>・ 150～250 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <div>エポキシ樹脂の粘性土による区分 低：低粘度形 中：中粘度形</div> <div>注入状況の確認方法 ※コアの抜取りを行う (抜取り個数 ※長さ 500mm ごと及びその端数につき 1 個 (抜取り部の補修方法 ※図示 ・ コアの抜取りを行わない</div> <div>・ U カットシーリング材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系 シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填 ・ 行う ・ 行わない シーリング材の試験は改修標準仕様書第 3 章 防水改修工事による ・ 可とう性エポキシ樹脂</div> <div>・ シール工法 ・ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂</div>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml / m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300 ・	・ 130 ・	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300 ・	・ 130 ・	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100 ・	・ 40 ・	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200 ・	・ 70 ・	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250 ・	・ 130 ・			
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml / m)																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300 ・	・ 130 ・																												
	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300 ・	・ 130 ・																												
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100 ・	・ 40 ・																												
	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200 ・	・ 70 ・																												
	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250 ・	・ 130 ・																												
3 欠損部改修工法	<div>[4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 9]</div> <div>・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル</div> <div>・ モルタル塗替え工法 ・ 現場調合材料 セメント 改修標準仕様書第 8 章 2 節 8. 2. 5 による。 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、 水和熱が 7 日目で 352J/g 以下かつ 28 日目で 402J/g 以下のものとする</div> <div>・ 既調合材料 ( ) 既製目地材 ・ 使用する (形状 ・ 図示 仕上げ厚又は全塗厚が 25mm を超える場合の処置 ※図示 ・ 使用しない</div>																															

4  
の  
2

外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）

4 浮き部改修工法

[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10～4. 4. 15]

工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		注入量 (ml/箇所)
	一般部	指定部	一般部	指定部	
・アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法	※16 .	※25 .	—	—	※25 .
・アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法	※13 .	※20 .	※12 .	※20 .	※25 .
・アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 .	※20 .	※12 .	※20 .	※50 .
・注入口付アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法	※9 .	※16 .	—	—	※25 .
・注入口付アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法	※9 .	※16 .	※9 .	※16 .	※25 .
・注入口付アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 .	※16 .	※9 .	※16 .	※50 .
・充填工法	—	—	—	—	—
・モルタル塗替え工法	—	—	—	—	—

アンカーピンの材質  
※ステンレス鋼（SUS304）呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの  
.  
注入口付アンカーピンの材質  
※ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径 6mm 程度  
.  
充填工法  
・エポキシ樹脂モルタル      ・ポリマーセメントモルタル  
モルタル塗替え工法  
・現場調合材料  
セメントは、改修標準仕様書 8 章 2 節 8. 2. 5 による。  
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が 7 日目で 352J/g 以下かつ 28 日目で 402J/g 以下のものとする  
・既調合材料      （      ）  
既製目地材      ・使用する（形状      ・図示      ・      ）      ・使用しない  
仕上げ厚又は全塗厚が 25mm を超える場合の処置      ※図示      .

章	項 目	特 記 事 項																														
4 の 3 外壁改修工事 (タイル張り仕上げ外壁改修)	1 既存タイル張りの撤去	◎外壁タイル張り全面 ・ 図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・ 張付けモルタルまで ・ タイルのみ																														
	2 ひび割れ部改修工法	<div style="text-align: right;">[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 5. 5] [4. 5. 6]</div> <div>改修箇所 ※既存タイル張り面 ・ 既存タイル撤去面 ( ・ コンクリート面 ・ モルタル面) ・ 樹脂注入工法</div> <table><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>エポキシ樹脂</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (ml /m)</th></tr><tr><td rowspan="2">※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>※200～300 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>※200～300 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td rowspan="4">・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.3 未満</td><td>低</td><td>・ 50～100 ・</td><td>・ 40 ・</td></tr><tr><td>0.3 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>・ 100～200 ・</td><td>・ 70 ・</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>・ 150～250 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・</td></tr></table> <div>エポキシ樹脂の粘性土による区分 低：低粘度形 中：中粘度形</div> <div>注入状況の確認方法 ※コアの抜取りを行う (抜取り個数 ※長さ 500mごと及びその端数につき 1 個 ・ ) (抜取り部の補修方法 ※図示 ・ ) ・ コアの抜取りを行わない</div> <div>・ U カットシール材充填工法 (既存タイル張り撤去面) ・ シーリング材 充填材料 ※1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填 ・ 行う ・ 行わない シーリング材の試験は改修標準仕様書第 3 章 防水改修工事による ・ 可とう性エポキシ樹脂</div>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml /m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300 ・	・ 130 ・	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300 ・	・ 130 ・	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100 ・	・ 40 ・	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200 ・	・ 70 ・	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250 ・	・ 130 ・			
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml /m)																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300 ・	・ 130 ・																												
	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300 ・	・ 130 ・																												
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100 ・	・ 40 ・																												
	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200 ・	・ 70 ・																												
	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250 ・	・ 130 ・																												
				・																												



章	項 目	特 記 事 項
4 の 3  外壁改修工事 (タイル張り仕上げ外壁改修)	3 欠損部改修工法	<div style="text-align: right;">[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 5. 8]</div> <p>◎タイル部分張替え工法</p> <p>接着剤の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリマーセメントモルタル</li> <li>・JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系</li> </ul> <p>・タイル張替え工法</p> <p>接着剤の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・張付けモルタル (・現場調合材料 ・既製調合モルタル)</li> <li>・JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系</li> </ul> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置</p> <p>※改修標準仕様書 表 4. 5. 1 による ・図示</p> <p>外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着力試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行う ・行わない</li> </ul> <p>・セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り</p> <p>下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目荒し工法(改修標準仕様書 4. 4. 9(3)による) ・</li> </ul> <p>タイル張りの工法</p> <p>外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り</p> <p>外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り</p> <p>シーリング: 改修特記仕様書 3 章 防水改修工事による</p> <p>・有機系接着剤によるタイル(セラミックタイル)張り</p> <p>下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目荒し工法(改修標準仕様書 4. 4. 9(3)による) ・</li> </ul> <p>シーリング材の種類</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 ・</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 ・</p> <p>シーリングのその他の事項は、改修標準仕様書 3 章 防水改修工事による</p>

章	項 目	特 記 事 項																																																																
4 の 3  外壁改修工事 (タイル張り仕上げ外壁改修)	4 浮き部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 5. 9～4. 5. 15] <table><tr><th rowspan="2">工法の種類</th><th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/㎡)</th><th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/㎡)</th><th rowspan="2">注入量 (ml/箇所)</th></tr><tr><th>一般部</th><th>指定部</th><th>一般部</th><th>指定部</th></tr><tr><td>・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法</td><td>※16 ・</td><td>※25 ・</td><td>—</td><td>—</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法</td><td>※13 ・</td><td>※20 ・</td><td>※12 ・</td><td>※20 ・</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法</td><td>※13 ・</td><td>※20 ・</td><td>※12 ・</td><td>※20 ・</td><td>※50 ・</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>—</td><td>—</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※50 ・</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法</td><td>・</td><td>・</td><td>—</td><td>—</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・タイル部張替え工法</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>・タイル張替え工法</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径 6mm ・タイル部張替え工法 接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557 による一液反応硬化形成シリコン樹脂系  ・タイル張替え工法 接着剤の種類 ・張付けモルタル (・現場調合材料 ・既製調合材料) ・JIS A 5557 による一液反応硬化形成シリコン樹脂系  伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※改修標準仕様書 表 4. 5. 1 による ・図示 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整材塗りの接着剤試験 ・行う ・行わない  ・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りをを行うコンクリートの素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書 4. 4. 9(3) による) ・ タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り 外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り シーリングは、改修標準仕様書 3 章 防水改修工事による  ・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書 4. 4. 9(3) による) ・ シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系 ・ 伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系 ・ シーリングのその他事項は、改修標準仕様書 3 章 防水改修工事による	工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		注入量 (ml/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	—	—	※25 ・	・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・	・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	—	—	※25 ・	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	・	・	—	—	※25 ・	・タイル部張替え工法	—	—	—	—	—	・タイル張替え工法	—	—	—	—	—
	工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		注入量 (ml/箇所)																																																												
		一般部	指定部	一般部	指定部																																																													
	・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	—	—	※25 ・																																																												
	・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・																																																												
	・アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・																																																												
	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	—	—	※25 ・																																																												
	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・																																																												
	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・																																																												
	・注入口付アンカーピン部 部 部樹脂注入工法	・	・	—	—	※25 ・																																																												
・タイル部張替え工法	—	—	—	—	—																																																													
・タイル張替え工法	—	—	—	—	—																																																													

章	項 目	特 記 事 項				
4 の 3 外壁改修工事 (タイル張り仕上げ外壁改修)	5 目地改修工法	[4.1.4] [4.5.16] ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 図示 シーリングは、改修標準仕様書第3章 防水改修工事による				
	6 タイルの形状、寸法等	[4.2.2]				
		施工箇所	図示			
		形状寸法(mm)	300			
		再生材料の適用	・無	・	・	・
		吸水率による区分	◎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
		うわぐすり	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無
		役物	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無
		色	◎標準・特注	・標準・特注	・標準・特注	・標準・特注
		耐凍害性	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無
		耐滑り性	◎有	・	・	・
		備考				
		標準的な曲がりの役物は一体成形とする 試験張り ・行う ◎行わない 見本焼き ・行う ◎行わない				

章	項 目	特 記 事 項		
4 の 4 外壁改修工事 (塗り仕上げ外壁改修)	1 既存塗膜等の除去、 下地処理及び下地調整	[4. 6. 3]		
		工 法	処理範囲	下地処理(下地のひび割れ部等の補修)
		・サンダー工法	・図示 ※既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は処理面積の30%とする)	・ひび割れ部 改修工法 ・浮き部 改修工法 ・欠損部 改修工法
		・ 高圧水洗工法 加圧力 ※30MPa 程度以上 ・ ・塗膜はく離剤工法	・図示 ※既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする) ・図示 ※既存仕上げ面全体	
	2 下地調整塗材	[4. 6. 3]		
		※下地調整塗材 (C-2) ・ポリマーセメントモルタル		
	3 仕上塗材仕上げ	[4. 1. 5] [4. 2. 2] [4. 6. 5] [表 4. 2. 4]		
		建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外		
		新規仕上塗材の種類 ・薄付け仕上塗材		
		種類(呼び名)	防火材料	吸放湿性
		外装薄塗材 Si	・	・
		・可とう形外装薄塗材 Si	・	・
		・外装薄塗材 E	・	・
		・可とう形外装薄塗材 E	・	・
		・防水形外装薄塗材 E	・	・
		・外装薄塗材 S	・	・
		仕上げの形状及び工法等		
		・砂壁状 ・ゆず肌状 (・吹付け・ローラー塗り) ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状 (・吹付け・こて塗り) ・着色骨材砂壁状 (・吹付け・こて塗り) ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく		
		・厚付け仕上塗材		
		種類(呼び名)	防火材料	仕上げの形状及び工法等
		・外装厚塗材 C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状
		・外装厚塗材 Si	・	・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし
		・外装厚塗材 E	・	上塗材 ・適用する ・適用しない

章	項 目	特 記 事 項		
4 の 4 外壁改修工事 (塗り仕上げ外壁改修)	3 仕上塗材仕上げ	・ 複層仕上塗材		
		種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等
		・ 複層塗材 CE	・	◎ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材の種類 溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・ つやなし ・ メタリック
		・ 可とう形複層塗材 CE	・	
		・ 複層塗材 Si	・	
		◎複層塗材 E	・	
		・ 複層塗材 RE	・	
		・ 防水形複層塗材 CE	・	
		・ 防水形複層塗材 E	・	
		・ 防水形複層塗材 RE	・	
		・ 防水形複層塗材 RS	・	
		・ 可とう形改修用仕上塗材		
		種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等
		・ 可とう形改修塗材 E	・	・ 平たん状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材の種類 溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・ つやなし ・ メタリック
・ 可とう形改修塗材 RE	・			
・ 可とう形改修塗材 CE	・			
4 マスチック塗材塗り		[4. 1. 5] [4. 7. 2] [表 4. 7. 1]		
	種別	・ A 種 ・ B 種		

章	項 目	特 記 事 項																															
4 の 5  外壁改修工事 (外壁用塗膜防水材塗り)	1 外壁用塗膜防水材塗り	[4. 1. 5] [4. 2. 2] [4. 8. 2] [表 4. 2. 6] 仕上げの形状 ・ 工法 ・ 外壁用仕上塗材の耐候性 ※JIS A 6909 の耐候型 I 種相当 ・ 下地挙動緩衝材の適用 ・ 適用する ・ 適用しない 吹付け工法の模様材の種類 ・ 所要量 (kg/m <sup>2</sup> ) ・ 外壁用仕上塗料の種類 ・ 所要量 (kg/m <sup>2</sup> ) ・																															
	2 コンクリートのひび割れ部改修工法	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 4] [4. 3. 5] ・ 樹脂注入工法 <table><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>エポキシ樹脂</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (ml/m)</th></tr><tr><td rowspan="2">※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>※200～300 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>※200～300 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td rowspan="4">・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.3 未満</td><td>低</td><td>・ 50～100 ・</td><td>・ 40 ・</td></tr><tr><td>0.3 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>・ 100～200 ・</td><td>・ 70 ・</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>・ 150～250 ・</td><td>・ 130 ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・</td></tr></table> エポキシ樹脂の粘性土による区分 低：低粘度形 中：中粘度形  注入状況の確認方法 ※コアの抜き取りを行う (抜き取り個数 ※長さ 500mごと及びその端数につき 1 個 ・ ) (抜き取り部の補修方法 ※図示 ・ ) ・ コアの抜き取りを行わない  ・ U カットシーリング材充填工法 ・ シーリング材 充填材料 ※1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系 ・ シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填 ・ 行う ・ 行わない シーリング材の試験は改修標準仕様書第 3 章 防水改修工事による ・ 可とう性エポキシ樹脂  ・ シール工法 ・ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300 ・	・ 130 ・	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300 ・	・ 130 ・	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100 ・	・ 40 ・	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200 ・	・ 70 ・	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250 ・	・ 130 ・				・
	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300 ・	・ 130 ・																													
	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300 ・	・ 130 ・																													
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100 ・	・ 40 ・																													
	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200 ・	・ 70 ・																													
	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250 ・	・ 130 ・																													
				・																													
3 コンクリート面の欠損部改修工事	[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 3. 7] ・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																																

章	項 目	特 記 事 項																															
4 の 5  外壁改修工事 (外壁用塗膜防水材塗り)	4    モルタル面のひび割れ改修工事	<div>[4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5] [4. 4. 6]</div> <div>・ 樹脂注入工法</div> <table><thead><tr><th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅 (mm)</th><th>エポキシ樹脂</th><th>注入口間隔 (mm)</th><th>注入量 (ml /m)</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>※200～300</td><td>・ 130</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>※200～300</td><td>・ 130</td></tr><tr><td rowspan="4">・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td><td>0.2 以上 0.3 未満</td><td>低</td><td>・ 50～100</td><td>・ 40</td></tr><tr><td>0.3 以上 0.5 未満</td><td>低</td><td>・ 100～200</td><td>・ 70</td></tr><tr><td>0.5 以上 1.0 以下</td><td>中</td><td>・ 150～250</td><td>・ 130</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>・</td></tr></tbody></table> <div>エポキシ樹脂の粘性土による区分    低：低粘度形    中：中粘度形</div> <div>注入状況の確認方法     ※コアの抜取りを行う         (抜取り個数    ※長さ 500mmごと及びその端数につき 1 個    ・    )         (抜取り部の補修方法    ※図示    ・    )     ・ コアの抜取りを行わない</div> <div>・ U カットシール材充填工法     ・ シーリング材         充填材料    ※1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系    ・         シーリング材のろえにポリマーセメントモルタルの充填    ・ 行う   </div>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml /m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300	・ 130	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300	・ 130	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100	・ 40	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200	・ 70	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250	・ 130				・
	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	エポキシ樹脂	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml /m)																												
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.5 未満	低	※200～300	・ 130																													
	0.5 以上 1.0 以下	中	※200～300	・ 130																													
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上 0.3 未満	低	・ 50～100	・ 40																													
	0.3 以上 0.5 未満	低	・ 100～200	・ 70																													
	0.5 以上 1.0 以下	中	・ 150～250	・ 130																													
				・																													

章	項 目	特 記 事 項																																																										
4 の 5  外壁改修工事 (外壁用塗膜防水材塗り)	6 浮き部改修工事	<div>[4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 10~4. 4. 15]</div> <table><tr><th rowspan="2">工法の種類</th><th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/㎡)</th><th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/㎡)</th><th rowspan="2">注入量 (ml/箇所)</th></tr><tr><th>一般部</th><th>指定部</th><th>一般部</th><th>指定部</th></tr><tr><td>・アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法</td><td>※16 ・</td><td>※25 ・</td><td>—</td><td>—</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13 ・</td><td>※20 ・</td><td>※12 ・</td><td>※20 ・</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※13 ・</td><td>※20 ・</td><td>※12 ・</td><td>※20 ・</td><td>※50 ・</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>—</td><td>—</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td>・注入口付アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※9 ・</td><td>※16 ・</td><td>※50 ・</td></tr><tr><td>・充填工法</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>・モルタル塗替え工法</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> <p>アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの ・</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径 6mm 程度 ・</p> <p>充填工法 ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル</p> <p>モルタル塗替え工法 ・現場調合材料 セメントは、改修標準仕様書 8 章 2 節 8. 2. 5 による。 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が 7 日目で 352J/g 以下かつ 28 日目で 402J/g 以下のものとする ・既調合材料（ ） 既製品地材 ・使用する（形状 ・図示 ・ ） ・使用しない 仕上げ厚又は全塗厚が 25mm を超える場合の処置 ※図示 ・</p>	工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		注入量 (ml/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	—	—	※25 ・	・アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・	・アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・	・注入口付アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	—	—	※25 ・	・注入口付アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・	・注入口付アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・	・充填工法	—	—	—	—	—	・モルタル塗替え工法	—	—	—	—	—
	工法の種類	アンカーピンの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		注入量 (ml/箇所)																																																						
一般部		指定部	一般部	指定部																																																								
・アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	—	—	※25 ・																																																							
・アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・																																																							
・アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・																																																							
・注入口付アンカーピン部 エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	—	—	※25 ・																																																							
・注入口付アンカーピン部 全面 エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・																																																							
・注入口付アンカーピン部 全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・																																																							
・充填工法	—	—	—	—	—																																																							
・モルタル塗替え工法	—	—	—	—	—																																																							
	7 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	<div>[4. 6. 3]</div> <table><tr><th>工法</th><th>処理範囲</th><th></th></tr><tr><td>・サンダー工法</td><td>・図示 ※既存仕上げ面全体 （既存塗膜の除去範囲は処理面積の 30%とする）</td><td></td></tr><tr><td>・高圧水洗工法 加圧力 ※30MPa 程度以上 ・</td><td>・図示 ※既存仕上げ面全体 （既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする）</td><td></td></tr><tr><td>・塗膜はく離剤工法</td><td>・図示 ※既存仕上げ面全体</td><td></td></tr><tr><td>・水洗い工法</td><td>※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜剥離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・図示</td><td></td></tr></table>	工法	処理範囲		・サンダー工法	・図示 ※既存仕上げ面全体 （既存塗膜の除去範囲は処理面積の 30%とする）		・高圧水洗工法 加圧力 ※30MPa 程度以上 ・	・図示 ※既存仕上げ面全体 （既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする）		・塗膜はく離剤工法	・図示 ※既存仕上げ面全体		・水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜剥離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・図示																																												
工法	処理範囲																																																											
・サンダー工法	・図示 ※既存仕上げ面全体 （既存塗膜の除去範囲は処理面積の 30%とする）																																																											
・高圧水洗工法 加圧力 ※30MPa 程度以上 ・	・図示 ※既存仕上げ面全体 （既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする）																																																											
・塗膜はく離剤工法	・図示 ※既存仕上げ面全体																																																											
・水洗い工法	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜剥離剤工法の処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・図示																																																											



章	項 目	特 記 事 項																																																																																													
4 の 5 外壁改修工事 (外壁用塗膜防水材塗り)	8 下地調整塗材	[4. 6. 3] ※下地調整塗材 ・ ポリマーセメントモルタル																																																																																													
	9 仕上塗材仕上げ	[4. 1. 5] [4. 2. 2] [4. 6. 5] [表 4. 2. 4] 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・  新規仕上塗材の種類 ・ 薄付け仕上塗材 <table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>吸放湿性</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・ 外装薄塗材 Si</td><td>・</td><td>・</td><td>・ 砂壁状</td></tr><tr><td>・ 可とう形外装薄塗材 Si</td><td>・</td><td>・</td><td>・ ゆず肌状（・ 吹付け・ ローラー塗り）</td></tr><tr><td>・ 外装薄塗材 E</td><td>・</td><td>・</td><td>・ さざ波状 ・ 平たん状</td></tr><tr><td>・ 可とう形外装薄塗材 E</td><td>・</td><td>・</td><td>・ 凹凸状（・ 吹付け・ こて塗り）</td></tr><tr><td>・ 防水形外装薄塗材 E</td><td>・</td><td>・</td><td>・ 着色骨材砂壁状（・ 吹付け・ こて塗り）</td></tr><tr><td>・ 外装薄塗材 S</td><td>・</td><td>・</td><td>・ 砂壁状じゅらく ・ 京壁状じゅらく</td></tr></table> ・ 厚付け仕上塗材 <table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・ 外装厚塗材 C</td><td>・</td><td>・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状</td></tr><tr><td>・ 外装厚塗材 Si</td><td>・</td><td>・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし</td></tr><tr><td>・ 外装厚塗材 E</td><td>・</td><td>上塗材 ・ 適用する ・ 適用しない</td></tr></table> ・ 複層仕上塗材 <table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・ 複層塗材 CE</td><td>・</td><td>・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状</td></tr><tr><td>・ 可とう形複層塗材 CE</td><td>・</td><td>耐候性 ※耐候形 3 種 ・</td></tr><tr><td>・ 複層塗材 Si</td><td>・</td><td>上塗材の種類</td></tr><tr><td>・ 複層塗材 E</td><td>・</td><td>溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系</td></tr><tr><td>・ 複層塗材 RE</td><td>・</td><td>樹脂 ※アクリル系 ・</td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材 CE</td><td>・</td><td>外観 ※つやあり ・ つやなし</td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材 E</td><td>・</td><td>・ メタリック</td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材 RE</td><td>・</td><td></td></tr><tr><td>・ 防水形複層塗材 RS</td><td>・</td><td></td></tr></table> ・ 可とう形改修用仕上塗材 <table><tr><th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr><tr><td>・ 可とう形改修塗材 E</td><td>・</td><td>・ 平たん状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状</td></tr><tr><td>・ 可とう形改修塗材 RE</td><td>・</td><td>耐候性 ※耐候形 3 種 ・</td></tr><tr><td>・ 可とう形改修塗材 CE</td><td>・</td><td>上塗材の種類</td></tr><tr><td></td><td></td><td>溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系</td></tr><tr><td></td><td></td><td>樹脂 ※アクリル系 ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>外観 ※つやあり ・ つやなし</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ メタリック</td></tr></table>	種類（呼び名）	防火材料	吸放湿性	仕上げの形状及び工法等	・ 外装薄塗材 Si	・	・	・ 砂壁状	・ 可とう形外装薄塗材 Si	・	・	・ ゆず肌状（・ 吹付け・ ローラー塗り）	・ 外装薄塗材 E	・	・	・ さざ波状 ・ 平たん状	・ 可とう形外装薄塗材 E	・	・	・ 凹凸状（・ 吹付け・ こて塗り）	・ 防水形外装薄塗材 E	・	・	・ 着色骨材砂壁状（・ 吹付け・ こて塗り）	・ 外装薄塗材 S	・	・	・ 砂壁状じゅらく ・ 京壁状じゅらく	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・ 外装厚塗材 C	・	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状	・ 外装厚塗材 Si	・	・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし	・ 外装厚塗材 E	・	上塗材 ・ 適用する ・ 適用しない	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・ 複層塗材 CE	・	・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状	・ 可とう形複層塗材 CE	・	耐候性 ※耐候形 3 種 ・	・ 複層塗材 Si	・	上塗材の種類	・ 複層塗材 E	・	溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系	・ 複層塗材 RE	・	樹脂 ※アクリル系 ・	・ 防水形複層塗材 CE	・	外観 ※つやあり ・ つやなし	・ 防水形複層塗材 E	・	・ メタリック	・ 防水形複層塗材 RE	・		・ 防水形複層塗材 RS	・		種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・ 可とう形改修塗材 E	・	・ 平たん状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状	・ 可とう形改修塗材 RE	・	耐候性 ※耐候形 3 種 ・	・ 可とう形改修塗材 CE	・	上塗材の種類			溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系			樹脂 ※アクリル系 ・			外観 ※つやあり ・ つやなし		
種類（呼び名）	防火材料	吸放湿性	仕上げの形状及び工法等																																																																																												
・ 外装薄塗材 Si	・	・	・ 砂壁状																																																																																												
・ 可とう形外装薄塗材 Si	・	・	・ ゆず肌状（・ 吹付け・ ローラー塗り）																																																																																												
・ 外装薄塗材 E	・	・	・ さざ波状 ・ 平たん状																																																																																												
・ 可とう形外装薄塗材 E	・	・	・ 凹凸状（・ 吹付け・ こて塗り）																																																																																												
・ 防水形外装薄塗材 E	・	・	・ 着色骨材砂壁状（・ 吹付け・ こて塗り）																																																																																												
・ 外装薄塗材 S	・	・	・ 砂壁状じゅらく ・ 京壁状じゅらく																																																																																												
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																													
・ 外装厚塗材 C	・	・ 吹放し ・ 凸部処理 ・ 平たん状																																																																																													
・ 外装厚塗材 Si	・	・ 凹凸状 ・ ひき起こし ・ かき落とし																																																																																													
・ 外装厚塗材 E	・	上塗材 ・ 適用する ・ 適用しない																																																																																													
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																													
・ 複層塗材 CE	・	・ ゆず肌状 ・ 凸部処理 ・ 凹凸状																																																																																													
・ 可とう形複層塗材 CE	・	耐候性 ※耐候形 3 種 ・																																																																																													
・ 複層塗材 Si	・	上塗材の種類																																																																																													
・ 複層塗材 E	・	溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系																																																																																													
・ 複層塗材 RE	・	樹脂 ※アクリル系 ・																																																																																													
・ 防水形複層塗材 CE	・	外観 ※つやあり ・ つやなし																																																																																													
・ 防水形複層塗材 E	・	・ メタリック																																																																																													
・ 防水形複層塗材 RE	・																																																																																														
・ 防水形複層塗材 RS	・																																																																																														
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																													
・ 可とう形改修塗材 E	・	・ 平たん状 ・ さざ波状 ・ ゆず肌状																																																																																													
・ 可とう形改修塗材 RE	・	耐候性 ※耐候形 3 種 ・																																																																																													
・ 可とう形改修塗材 CE	・	上塗材の種類																																																																																													
		溶媒 ※水系 ・ 溶剤系 ・ 弱溶剤系																																																																																													
		樹脂 ※アクリル系 ・																																																																																													
		外観 ※つやあり ・ つやなし																																																																																													
		・ メタリック																																																																																													

4  
の  
6  
  
外壁改修工事  
(外断熱改修工法)

1 外断熱改修工法

[9.3.2~9.3.4]

断熱材

断熱材の種類  
断熱材の厚さ(mm)  
施工箇所  
ホルムアルデヒド放散量

・  
・  
・図示  
※規制対象外

外装材

種類	防火性能	備考
・		

鋼材  
笠木

改修特記仕様書第8章  
改修特記仕様書第3章

8-3 鉄骨工事  
・アルミニウム製笠木による

鋼材による

既存外壁の処置

既存外壁仕上材の撤去  
下地面の清掃  
欠損部の改修工法

・あり  
・行う  
・改修特記仕様書第4章 外壁改修工事による

・なし  
・行わない

工法

1-1 適用区分による風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法

不陸等の下地調整

断熱材の施工  
外装材の施工  
通気層の有無  
外装材の外壁への取付け  
笠木の施工

・  
・断熱材製造所の仕様による  
・外装材製造所の仕様による  
・あり ( mm)  
・図示

・なし

改修特記仕様書第3章 アルミニウム製笠木による

章	項 目	特 記 事 項																																		
5 建具改修工事	1 改修工法	<div>[5. 1. 3]</div> <table><tr><th colspan="2">建具の種類</th><th>かぶせ工法</th><th>撤去工法</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td colspan="2">・ アルミニウム製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>◎建具表による ・</td></tr><tr><td colspan="2">・ 樹脂製建具</td><td>—</td><td>・</td><td>◎建具表による ・</td></tr><tr><td rowspan="2">・ 鋼製建具</td><td>・ 外部</td><td>・</td><td>・</td><td>◎建具表による ・</td></tr><tr><td>・ 内部</td><td>・</td><td>・</td><td>◎建具表による ・</td></tr><tr><td colspan="2">・ 鋼製軽量建具</td><td>・</td><td>・</td><td>◎建具表による ・</td></tr><tr><td colspan="2">・ ステンレス製建具</td><td>・</td><td>・</td><td>◎建具表による ・</td></tr></table> <p>新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ※図示 ・ 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示 ・</p>	建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所	・ アルミニウム製建具		・	・	◎建具表による ・	・ 樹脂製建具		—	・	◎建具表による ・	・ 鋼製建具	・ 外部	・	・	◎建具表による ・	・ 内部	・	・	◎建具表による ・	・ 鋼製軽量建具		・	・	◎建具表による ・	・ ステンレス製建具		・	・	◎建具表による ・
	建具の種類		かぶせ工法	撤去工法	適用箇所																															
	・ アルミニウム製建具		・	・	◎建具表による ・																															
	・ 樹脂製建具		—	・	◎建具表による ・																															
	・ 鋼製建具	・ 外部	・	・	◎建具表による ・																															
・ 内部		・	・	◎建具表による ・																																
・ 鋼製軽量建具		・	・	◎建具表による ・																																
・ ステンレス製建具		・	・	◎建具表による ・																																
2 防火戸	<div>[5. 1. 4]</div> <p>防火戸の指定 ・ 指定する（適用箇所： ※建具表による ・ ） ・ 指定しない</p> <p>ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 ・ 連動させる（※建具表による ・ ） ・ 連動しない</p>																																			
3 見本の製作等	<div>[5. 1. 5]</div> <p>建具見本の製作 ・ 行う（建具符号： ） ・ 行わない</p> <p>建具見本の程度 ・ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・ 納まり等がわかる程度のもの</p> <p>特殊な建具の仮組 ・ 行う（建具符号： ） ・ 行わない</p>																																			
4 防犯建物部品	<div>[5. 1. 7]</div> <p>・ 適用する（適用箇所： ※建具表による ・ ） ・ 適用しない</p>																																			
5 アルミニウム製建具	<div>[5. 2. 2～5. 2. 5] [表 5. 2. 2]</div> <p>性能値等 耐風圧性等級 ・ （建具符号： ・ 建具表による ） 気密性の等級 ・ （建具符号： ・ 建具表による ） 水密性の等級 ・ （建具符号： ・ 建具表による ）</p> <p>外部に面する建具の種別 ・ A 種（建具符号： ・ 建具表による ・ ） ・ B 種（建具符号： ・ 建具表による ・ ） ・ C 種（建具符号： ・ 建具表による ・ ）</p> <p>・ 防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ） ・ 断熱ドア、断熱サッシ 耐熱性の等級（ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ）</p> <p>耐震ドア 面内変形追随性の等級（ ） （建具符号： ・ 建具表による ・ ）</p> <p>材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430JIL 又は SUS443JI</p>																																			

章	項 目	特 記 事 項												
5 建具改修工事	5 アルミニウム製建具	形状及び仕上げ 枠の見込み寸法      ◎建具表による      ・ アルミニウムの表面処理 外部に面する建具 種別      ・BB-1      ・BB-2      (改修標準仕様書 表 5. 2. 2) 着色      ・標準色      ・特注色 屋内の建具 種別      ・BC-1      ・BC-2      (改修標準仕様書 表 5. 2. 2) 着色      ・標準色      ・特注色 ステンレス製のくつずりの仕上げ      ※HL 程度      ・No. 2B 程度 結露水の処理方法      ※図示      ・ 工法 水切り板、ぜん板      ※図示      ・												
	6 網戸等	<div style="text-align: right;">[5. 2. 3] [5. 3. 3]</div> <table><tr><th>種類</th><th>材種</th><th>線径</th><th>網目</th></tr><tr><td>・ 防虫網</td><td>※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製</td><td>※0. 25mm 以上 ・</td><td>※16～18 メッシュ ・</td></tr><tr><td>・ 防鳥網</td><td>ステンレス (SUS304) 線材</td><td>1. 5mm</td><td>網目寸法 15mm</td></tr></table>	種類	材種	線径	網目	・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm 以上 ・	※16～18 メッシュ ・	・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm	網目寸法 15mm
	種類	材種	線径	網目										
・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm 以上 ・	※16～18 メッシュ ・											
・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm	網目寸法 15mm											
7 樹脂製建具	<div style="text-align: right;">[5. 2. 2] [5. 3. 2～5. 3. 5]</div> <div><div>性能値等</div><div>耐風圧性の等級      ・      (建具符号：・ 建具表による      ) 気密性の等級      ・      (建具符号：・ 建具表による      ) 水密性の等級      ・      (建具符号：・ 建具表による      ) 外部に面する建具の種別      ・ A 種 (建具符号：・ 建具表による      ・      )   </div></div>													

章	項 目	特 記 事 項
5 建具改修工事	8 鋼製建具	<p>[5. 2. 2] [5. 4. 2~5. 4. 4] [表 5. 4. 2]</p> <p>性能値等</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：建具表による ・ ）  ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号：・建具表による ・ ）  ・S-5（建具符号：・建具表による ・ ）  ・S-6（建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>・防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>・断熱ドア、断熱サッシ 耐熱性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ）</p> <p>・耐震ドア 面内変形追随性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ）</p> <p>材料</p> <p>ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又は SUS443J1 ・</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>鋼板の厚さ ※改修標準仕様書 表 5. 4. 2 による ・ mm</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL 程度 ・ No. 2B 程度</p>
	9 鋼製軽量建具	<p>[5. 2. 2] [5. 5. 2~5. 5. 4]</p> <p>性能値等</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：建具表による）  ◎適用しない</p> <p>・防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>・断熱ドアセット、断熱サッシ 耐熱性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ）</p> <p>・耐震ドア 面内変形追随性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ）</p> <p>材料</p> <p>鋼板 ・亜鉛めっき鋼板 ◎ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板</p> <p>ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又は SUS443J1 ・</p> <p>召合せ、縦小口包み板の材質 ※鋼板  ・ステンレス鋼板  ・アルミニウム合金の押出形材</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>鋼板の厚さ(mm) ※改修標準仕様書 表 5. 5. 1 による  ・ （使用箇所： ）</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL 程度 ・ No. 2B 程度</p>

章	項 目	特 記 事 項											
5 建具改修工事	10 ステンレス製建具	<p>[5. 2. 2] [5. 4. 2] [5. 6. 2～5. 6. 5]</p> <p>性能値等</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：・建具表による ・ ）  ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号：・建具表による ・ ）  ・S-5（建具符号：・建具表による ・ ）  ・S-6（建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>・防音ドア、防音サッシ 遮音性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>・断熱ドアセット、断熱サッシ 耐熱性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ）</p> <p>・耐震ドア 面内変形追従性の等級（ ）  （建具符号：・建具表による ）</p> <p>材料  ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又は SUS443J1 ・</p> <p>状及び仕上げ  表面仕上げ ・HL ・鏡面仕上げ ・  ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL 程度 ・No. 2B 程度</p> <p>工法  ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</p>											
	11 木製建具	<p>(16. 7. 2～16. 7. 4)</p> <p>建具材の加工、組立時の含水率 ※B 種 ・</p> <p>建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量  ※規制対象外 ・</p> <p>・フラッシュ戸  表面材の合板の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th><th>規格等</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・普通合板</td><td>           表面の樹種            生地、透明塗料塗り            （※ラワン合板程度 ・ ）            不透明塗料塗り            （※しな合板程度 ・ ）            板面の品質（ ）            接着の程度（・1 類 ・2 類）            防虫処理 ・行う         </td><td></td></tr> <tr> <td>・天然木化粧合板</td><td>           樹種名（ ）            接着の程度（・1 類 ・2 類）            防虫処理 ・行う         </td><td></td></tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板</td><td>           化粧加工の方法            （・オーバーレイ ・プリント ・塗装）            表面性能（ ）タイプ            接着の程度（・1 類 ・2 類）            防虫処理 ・行う         </td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>表面板の厚さ ※標準仕様書 表 16. 7. 6 による ・</p> <p>・かまち戸  かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）  見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・</p>	合板の種類	規格等	備考	・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラワン合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う		・天然木化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う		・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 （・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う
合板の種類	規格等	備考											
・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラワン合板程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな合板程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う												
・天然木化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う												
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 （・オーバーレイ ・プリント ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1 類 ・2 類） 防虫処理 ・行う												

章	項 目	特 記 事 項
5 建具改修工事	11 木製建具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふすま 張りの種別（・Ⅰ型    ・Ⅱ型） 上張り（押入等の裏側以外）    ・鳥の子    ・新鳥の子又はビニル紙程度 縁仕上げ    ・塗り縁    ・生地縁（素地）    ・生地縁（ウレタンクリアー塗装） 見込み寸法    ※19.5mm    ・建具表による    ・</li> <li>・戸ぶすま 見込み寸法    ※30mm    ・建具表による    ・</li> <li>・紙張り障子 見込み寸法    ※30mm    ・建具表による    ・</li> <li>枠及びくつずりの材料    ・建具表による    ・</li> </ul>
	12 建具用金物	<div style="text-align: right;">[5.7.1～5.7.3]</div> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書 表 5.7.1 及び適用は建具表による    ・</p> <p>金属製建具に使用する丁番 ※改修標準仕様書 表 5.7.2 による ・建具表による    ・枚数（    ）    大きさ（    ）</p> <p>樹脂製建具に使用する丁番 ※改修標準仕様書 表 5.7.3 による ・建具表による    ・枚数（    ）    大きさ（    ）</p> <p>握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ・建具表による    ・図示</p> <p>木製建具に使用する戸車及びレール ※標準仕様書 表 16.8.5 による    ・建具表による</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・錠前類 シリンダ箱鍵及びシリンダ本締り錠 （品質・性能及び試験方法）    建築材料等品質性能表による</li> <li>・クローザ類 （品質・性能及び試験方法）    建築材料等品質性能表による</li> </ul>
	13 鍵	<div style="text-align: right;">[5.7.4]</div> <p>マスターキー    ◎製作する    ・製作しない    ・既存のマスターキーに合わせる その他の鍵    ※各室 3 本 1 組（室名札付き）    ・ 鍵箱    ・無    ・有</p>
	14 自動ドア開閉装置	<div style="text-align: right;">[5.8.2] [5.8.3]</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き戸用駆動装置 [表 5.8.1] [表 5.8.2] 性能値    ※改修標準仕様書 表 5.8.1 による ・以下による 種類・開閉方式    (    ) 耐電圧    (    ) 温度上昇    (    ) 耐久性（サイクル）    (    ) 防錆    (    ) 電源    (    )</li> </ul>

章	項 目	特 記 事 項																														
5 建具改修工事	14 自動ドア開閉装置	<div>・多機能トイレ出入り口引き戸用駆動装置</div> <div>性能値 ※改修標準仕様書 表 5.8.2 による</div> <div>・ 以下による</div> <table><tr><td>耐電圧</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>温度上昇</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>耐久性 (サイクル)</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>防錆</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>電源</td><td>(</td><td>)</td></tr></table> <div>・引き戸用検出装置</div> <div>性能値 ※改修標準仕様書 表 5.8.3 による</div> <div>・ 以下による</div> <table><tr><td>放射無線周波数電磁界耐性</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>耐電圧</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>防錆</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>防滴</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>電源</td><td>(</td><td>)</td></tr></table> <div>戸の開閉方式</div> <div>・ 建具表による</div> <div>引き戸検出装置の種類 (改修標準仕様書表 5.8.4)</div> <div>・ 建具表による</div> <div>凍結防止装置</div> <div>・ 適用する (建具表による)</div> <div>・ 適用しない</div>	耐電圧	(	)	温度上昇	(	)	耐久性 (サイクル)	(	)	防錆	(	)	電源	(	)	放射無線周波数電磁界耐性	(	)	耐電圧	(	)	防錆	(	)	防滴	(	)	電源	(	)
	耐電圧	(	)																													
	温度上昇	(	)																													
耐久性 (サイクル)	(	)																														
防錆	(	)																														
電源	(	)																														
放射無線周波数電磁界耐性	(	)																														
耐電圧	(	)																														
防錆	(	)																														
防滴	(	)																														
電源	(	)																														
15 自閉式上吊り引戸装置	[5.9.3]	<div>性能</div> <div>手動開き力、手動閉じ力、閉じ速度の調整、制動区間、開閉繰返し、耐衝撃性</div> <div>※改修標準仕様書 表 5.9.1 による</div> <div>・ 以下による</div> <table><tr><td>手動開き力 (N)</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>手動閉じ力 (N)</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>閉じ速度の調整</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>制御区間</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>開閉繰返し</td><td>(</td><td>)</td></tr><tr><td>耐衝撃性</td><td>(</td><td>)</td></tr></table>	手動開き力 (N)	(	)	手動閉じ力 (N)	(	)	閉じ速度の調整	(	)	制御区間	(	)	開閉繰返し	(	)	耐衝撃性	(	)												
手動開き力 (N)	(	)																														
手動閉じ力 (N)	(	)																														
閉じ速度の調整	(	)																														
制御区間	(	)																														
開閉繰返し	(	)																														
耐衝撃性	(	)																														
16 重量シャッター	[5.10.2] [5.10.3]	<div>シャッターの種類</div> <div>・ 管理用シャッター</div> <div>耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></div> <div>・ 外壁用防火シャッター</div> <div>耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></div> <div>・ 屋内用防火シャッター</div> <div>・ 防煙シャッター</div> <div>開閉方式の種類</div> <div>※上部電動式 (手動併用)</div> <div>・ 上部手動式</div> <div>二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所</div> <div>・ 図示</div> <div>・</div> <div>障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所</div> <div>・ 図示</div> <div>・</div> <div>屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構</div> <div>・ 設ける (設置箇所</div> <div>・ 図示</div> <div>・ )</div> <div>※危害防止措置</div> <div>※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」(昭和 48 年 12 月 28 日建設省告示第 2563 号) に定める基準に適合するもの</div> <div>・ 設けない</div>																														



章	項 目	特 記 事 項													
5 建具改修工事	16 重量シャッター	管理用シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない  スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 ※Z12 又は F12 ・  ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又は SUS443J1 ・													
	17 軽量シャッター	[5. 11. 2～5. 11. 4] 開閉方式の種類 ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 ・ ( ) N/m <sup>2</sup>  スラットの材質 ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっき付着量 (※Z06 又は F06 ) ・ JIS G 3322 (塗装溶融 55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板) めっき付着量 (※AZ90 )  障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ・ 図示 ・ スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形													
	18 オーバーヘッドドア	[5. 12. 2] [5. 12. 3] <table><tr><th>セクション材料 による区分</th><th>耐風圧性能の区分</th><th>開閉方式 による区分</th><th>収納形式 による区分</th><th>ガイドレールの材質</th></tr><tr><td>※スチールタイプ ・ アルミウムタイプ ・ ファイバークラス タイプ</td><td>・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50</td><td>※バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式</td><td>・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形</td><td>※溶融亜鉛 めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板 (※SUS304、 SUS430J1L、又は SUS443J1) ・</td></tr></table> 障害物感知装置を設けたオーバーヘッドドアの設置箇所 ※建具表による ・					セクション材料 による区分	耐風圧性能の区分	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレールの材質	※スチールタイプ ・ アルミウムタイプ ・ ファイバークラス タイプ	・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形
セクション材料 による区分	耐風圧性能の区分	開閉方式 による区分	収納形式 による区分	ガイドレールの材質											
※スチールタイプ ・ アルミウムタイプ ・ ファイバークラス タイプ	・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	※溶融亜鉛 めっき鋼板 ・ ステンレス鋼板 (※SUS304、 SUS430J1L、又は SUS443J1) ・											

章	項 目	特 記 事 項
5 建具 改修 工事	19 ガラス	[3. 7] [5. 13. 2~5. 13. 4] [9. 4. 2] [9. 4. 3] 適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組み合わせは建具表及び図面による。 フロート板ガラスの品種、厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ 図示 型板ガラスの厚さによる種類 ※建具表による ・ 図示 網入りガラス、線入りガラスの網、線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類 ※建具表による ・ 図示  ・ 合わせガラス 材料板ガラスの種類、厚さの組合せ、合わせガラスの合計厚さ ※建具表による ・ 図示 形状による種類 ・ 平面合わせガラス ・ 曲面合わせガラス 落球衝撃はく離特性及びショットパック衝撃特性による種類 ・ I 類 ・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類  ・ 強化ガラス 形状板ガラスによる種類、材料板ガラスの種類による名称 ※建具表による ・ 図示 破片の状態及びショットパック衝撃耐性による種類 ・ I 類 ・ III 類  ・ 熱線吸収板ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類 ※建具表による ・ 図示 性能による種類 ◎1 類 ・ 2 類  ・ 複層ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ ※建具表による ・ 図示 断熱性による区分 ・ T1 ・ T2 ・ T3 ・ T4 ・ T5 ・ T6 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・ G ・ S 乾燥気体の種類 ・ 空気 ・ アルゴン  ・ 熱線反射ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による ・ 図示 日射遮蔽性による区分 ・ 1 種 ・ 2 種 ・ 3 種 耐久性による区分(日射熱遮蔽性が2 種の場合) ・ A 種 ・ B 種 映像調整 ・ 行わない ・ 行う  ・ 倍強度ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ※建具表による ・ 図示

章	項 目	特 記 事 項																																																
5 建具改修工事	19 ガラス	<div>ガラスの留め材及び溝の大きさ</div> <table><tr><th>建具の種類</th><th>ガラス留め材</th><th>ガラス溝の大きさ(mm)</th></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td>◎シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・</td><td>・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示</td></tr><tr><td>鋼製及び鋼製軽量</td><td>◎シーリング材 ・</td><td>・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示</td></tr><tr><td>ステンレス製</td><td>◎シーリング材 ・</td><td>・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示</td></tr><tr><td>樹脂製</td><td>・ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・</td><td>・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示</td></tr></table>	建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)	アルミニウム製	◎シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示	鋼製及び鋼製軽量	◎シーリング材 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示	ステンレス製	◎シーリング材 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示	樹脂製	・ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示																																	
	建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)																																															
アルミニウム製	◎シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示																																																
鋼製及び鋼製軽量	◎シーリング材 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示																																																
ステンレス製	◎シーリング材 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示																																																
樹脂製	・ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	・ 建具の製造所の仕様による ・ 図示																																																
20 ガラスブロック	<div>[5.13.5]</div> <table><tr><th rowspan="2">表面形状</th><th rowspan="2">呼び寸法 (mm)</th><th rowspan="2">厚さ (mm)</th><th colspan="2">色調</th><th colspan="2">目地幅(mm)</th><th rowspan="2">伸縮調整 目地(mm)</th><th rowspan="2">防火 性能</th></tr><tr><th>ｸﾘｱ</th><th>乳白</th><th>平積み</th><th>曲面積み</th></tr><tr><td rowspan="4">・正方形</td><td>・125×125</td><td>80</td><td>・</td><td>・</td><td rowspan="4">※8～15 ・15～25 ・</td><td>外側 ※標準仕様書 5.13.5(2)(ウ)(a) ② ・</td><td rowspan="4">※6m以下 ごとに 幅10～ 25 ・図示 ・</td><td rowspan="4">※無し ・有り</td></tr><tr><td>・160×160</td><td>・95 ・125</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・200×200</td><td>・95 ・125</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>・320×320</td><td>95</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="2">・長方形</td><td>・250×125</td><td>80</td><td>・</td><td>・</td><td rowspan="2"></td><td>内側 ※標準仕様書 5.13.5(2)(ウ)(a) ② ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・320×160</td><td>95</td><td>・</td><td>・</td><td></td></tr></table> <div>壁用金属枠及び補強材の材質、形状 ※図示</div> <div>力骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) ・</div> <div>寸法 ※径 5.5mm ・</div> <div>形状 ※はしご形状複筋及び単筋 ・</div> <div>化粧目地モルタルの色 ( )</div> <div>金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製</div> <div>寸法 ※図示 ・</div> <div>形状 ※図示 ・</div> <div>工法</div> <div>1-1 適用区分による風圧力の ( ・1 ・1.15 ・1.3 ) 倍の風圧力に対応した工法</div> <div>目地部の力骨の納まり</div> <div>※ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示</div>		表面形状	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調		目地幅(mm)		伸縮調整 目地(mm)	防火 性能	ｸﾘｱ	乳白	平積み	曲面積み	・正方形	・125×125	80	・	・	※8～15 ・15～25 ・	外側 ※標準仕様書 5.13.5(2)(ウ)(a) ② ・	※6m以下 ごとに 幅10～ 25 ・図示 ・	※無し ・有り	・160×160	・95 ・125	・	・	・200×200	・95 ・125	・	・	・320×320	95	・	・	・長方形	・250×125	80	・	・		内側 ※標準仕様書 5.13.5(2)(ウ)(a) ② ・			・320×160	95	・	・	
表面形状	呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)				色調		目地幅(mm)				伸縮調整 目地(mm)	防火 性能																																					
			ｸﾘｱ	乳白	平積み	曲面積み																																												
・正方形	・125×125	80	・	・	※8～15 ・15～25 ・	外側 ※標準仕様書 5.13.5(2)(ウ)(a) ② ・	※6m以下 ごとに 幅10～ 25 ・図示 ・	※無し ・有り																																										
	・160×160	・95 ・125	・	・																																														
	・200×200	・95 ・125	・	・																																														
	・320×320	95	・	・																																														
・長方形	・250×125	80	・	・		内側 ※標準仕様書 5.13.5(2)(ウ)(a) ② ・																																												
	・320×160	95	・	・																																														
21 ガラス用フィルム	<table><tr><th rowspan="2">種類</th><th colspan="2">記号</th><th rowspan="2">その他性能等</th></tr><tr><th>内貼り用</th><th>外貼り用</th></tr><tr><td>・ 日射調整フィルム</td><td>・ SC-1</td><td>・ SC-2</td><td></td></tr><tr><td>・ 低放射フィルム</td><td>・ LE</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム</td><td>・ GI-1</td><td>・ GI-2</td><td></td></tr><tr><td>・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム</td><td>・ GD-1</td><td>・ GD-1</td><td></td></tr><tr><td>・ ガラス貫通防止フィルム</td><td>・ SF</td><td></td><td></td></tr></table> <div>品質 JIS A 5759 による</div>		種類	記号		その他性能等	内貼り用	外貼り用	・ 日射調整フィルム	・ SC-1	・ SC-2		・ 低放射フィルム	・ LE			・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ GI-1	・ GI-2		・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ GD-1	・ GD-1		・ ガラス貫通防止フィルム	・ SF																								
種類	記号			その他性能等																																														
	内貼り用	外貼り用																																																
・ 日射調整フィルム	・ SC-1	・ SC-2																																																
・ 低放射フィルム	・ LE																																																	
・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ GI-1	・ GI-2																																																
・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ GD-1	・ GD-1																																																
・ ガラス貫通防止フィルム	・ SF																																																	

章	項 目	特 記 事 項																																															
6 内装改修工事	1 改修範囲	[6. 1. 3] 既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 ※壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示 既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※既存のまま ・ 図示																																															
	2 既存床の撤去及び下地補修	[6. 2. 2] ビニル床シート等の撤去 ※仕上げ材のみ（接着剤とも） ・ 下地モルタルとも（・ 図示の範囲 ・ 除去範囲全て） 合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法 既存コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4 章外壁改修工事による。 改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 ・																																															
	3 既存壁の撤去及び下地補修	[6. 3. 2] 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※改修標準仕様書 4. 4. 9 によるモルタル塗り （塗り厚 25mm を超える場合の処置 ※図示） ・																																															
	4 木下地等の表面仕上げ	[6. 5. 1] <table><tr><th colspan="2">表面仕上げの種別</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td rowspan="3">機械加工</td><td>・ A 種</td><td></td></tr><tr><td>・ B 種</td><td></td></tr><tr><td>・ C 種</td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">手加工</td><td>・ H-A 種</td><td></td></tr><tr><td>・ H-B 種</td><td></td></tr><tr><td>・ H-C 種</td><td></td></tr></table>	表面仕上げの種別		適用箇所	機械加工	・ A 種		・ B 種		・ C 種		手加工	・ H-A 種		・ H-B 種		・ H-C 種																															
	表面仕上げの種別		適用箇所																																														
機械加工	・ A 種																																																
	・ B 種																																																
	・ C 種																																																
手加工	・ H-A 種																																																
	・ H-B 種																																																
	・ H-C 種																																																
5 製材	[6. 5. 2] ・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>等級</th><th>形状</th><th>含水率</th><th>保存 処理</th><th>材面の 品質</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>※2 級 ・</td><td></td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>※2 級 ・</td><td></td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr></table> 間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない ・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>等級</th><th>形状</th><th>含水率</th><th>保存 処理</th><th>材面の 品質</th></tr><tr><td>見え掛り面</td><td></td><td></td><td>※上小節 ・</td><td></td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>見え掛り面以外</td><td></td><td></td><td>※小節以上 ・</td><td></td><td>※A 種 ・ B 種 ・</td><td></td><td></td></tr></table> 間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存 処理	材面の 品質				※2 級 ・		※A 種 ・ B 種 ・						※2 級 ・		※A 種 ・ B 種 ・			施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存 処理	材面の 品質	見え掛り面			※上小節 ・		※A 種 ・ B 種 ・			見え掛り面以外			※小節以上 ・		※A 種 ・ B 種 ・		
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存 処理	材面の 品質																																										
			※2 級 ・		※A 種 ・ B 種 ・																																												
			※2 級 ・		※A 種 ・ B 種 ・																																												
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存 処理	材面の 品質																																										
見え掛り面			※上小節 ・		※A 種 ・ B 種 ・																																												
見え掛り面以外			※小節以上 ・		※A 種 ・ B 種 ・																																												

章	項 目	特 記 事 項																																																	
6 内装改修工事	5 製材	<p>・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>等級</th><th>形状</th><th>含水率</th><th>保存 処理</th><th>材面の 処理</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>※1 等 ・</td><td></td><td>※10%以下 ・A種・B種・</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>※1 等 ・</td><td></td><td>※10%以下 ・A種・B種・</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>間伐材等の適用      ・ する（施工箇所：      ）      ・ しない</p> <p>・「製材の日本農林規格」以外の製材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>材面の品質</th><th>防虫処理の適用</th><th>含水率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>(      ) 造作材の場合 (※A種・B種)</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td><td>※A種 ・ B種 ・</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>(      ) 造作材の場合 (※A種・B種)</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td><td>※A種 ・ B種 ・</td></tr> </tbody> </table> <p>間伐材等の適用      ・ する（施工箇所：      ）      ・ しない</p>	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存 処理	材面の 処理				※1 等 ・		※10%以下 ・A種・B種・						※1 等 ・		※10%以下 ・A種・B種・			施工箇所	樹種	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理の適用	含水率				(      ) 造作材の場合 (※A種・B種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A種 ・ B種 ・				(      ) 造作材の場合 (※A種・B種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A種 ・ B種 ・							
	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率	保存 処理	材面の 処理																																											
				※1 等 ・		※10%以下 ・A種・B種・																																													
				※1 等 ・		※10%以下 ・A種・B種・																																													
	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理の適用	含水率																																													
				(      ) 造作材の場合 (※A種・B種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A種 ・ B種 ・																																													
				(      ) 造作材の場合 (※A種・B種)	・ 適用する ・ 適用しない	※A種 ・ B種 ・																																													
	6 造作用集成材	[6. 5. 2]	<p>ホルムアルデヒド放散量      ※規制対象外      ・</p> <p>◎「集成材の日本農林規格」による造作用集成材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>見付け材面数</th><th>見付け材面の品質</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>棚</td><td></td><td></td><td></td><td>※1 等      ・ 2 等</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>※1 等      ・ 2 等</td></tr> </tbody> </table> <p>間伐材等の適用      ・ する（施工箇所：      ）      ・ しない</p> <p>・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>化粧薄板の 厚さ (mm)</th><th>見付け材 面数</th><th>見付け材面の品質</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td><td>※1 等      ・ 2 等</td></tr> <tr> <td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td><td>※1 等      ・ 2 等</td></tr> </tbody> </table> <p>間伐材等の適用      ・ する（施工箇所：      ）      ・ しない</p> <p>・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>化粧薄板の 厚さ (mm)</th><th>見付け材面の品質</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>間伐材等の適用      ・ する（施工箇所：      ）      ・ しない</p>	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	棚				※1 等      ・ 2 等					※1 等      ・ 2 等	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材 面数	見付け材面の品質		化粧薄板： 芯材：				※1 等      ・ 2 等		化粧薄板： 芯材：				※1 等      ・ 2 等	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材面の品質		化粧薄板： 芯材：					化粧薄板： 芯材：			
	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面数	見付け材面の品質																																														
	棚				※1 等      ・ 2 等																																														
				※1 等      ・ 2 等																																															
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材 面数	見付け材面の品質																																														
	化粧薄板： 芯材：				※1 等      ・ 2 等																																														
	化粧薄板： 芯材：				※1 等      ・ 2 等																																														
施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材面の品質																																															
	化粧薄板： 芯材：																																																		
	化粧薄板： 芯材：																																																		

章	項 目	特 記 事 項																																																			
6 内装改修工事	6 造作用集成材	◎「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>見付け材面の品質</th><th>含水率</th></tr><tr><td>窓枠</td><td>米楡</td><td>25</td><td></td><td>※15%以下 ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>※15%以下 ・</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない  ・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>化粧薄板の 厚さ (mm)</th><th>見付け材面の 品質</th><th>含水率</th></tr><tr><td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td><td>※15%以下 ・</td></tr><tr><td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td><td>※15%以下 ・</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない  ・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱 <table><tr><th>施工箇所</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th><th>化粧薄板の 厚さ (mm)</th><th>見付け材面の 品質</th><th>含水率</th></tr><tr><td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td><td>※15%以下 ・</td></tr><tr><td></td><td>化粧薄板： 芯材：</td><td></td><td></td><td></td><td>※15%以下 ・</td></tr></table> 間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率	窓枠	米楡	25		※15%以下 ・					※15%以下 ・	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材面の 品質	含水率		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材面の 品質	含水率		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・
	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率																																																
	窓枠	米楡	25		※15%以下 ・																																																
					※15%以下 ・																																																
	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材面の 品質	含水率																																															
		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・																																															
		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・																																															
	施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の 厚さ (mm)	見付け材面の 品質	含水率																																															
		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・																																															
		化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・																																															
7 造作用単板積層材	<div>[6. 5. 2]</div> <div>ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・</div> <div>・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表面の化粧加工</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・ 有り (加工： ・天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級： )</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr></table>間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない</div> <div>・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表面の化粧加工</th><th>含水率</th><th>防虫処理の適用</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・ 有り (加工：天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級： )</td><td>※14%以下 ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr></table>間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない</div> <div>・CLT（直交集成板） <table><tr><th>施工箇所</th><th>品名</th><th>曲げ性能 (強度等級)</th><th>種別</th><th>接着性能 (使用環境)</th><th>樹種</th><th>寸法 (mm)</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>間伐材等の適用 ・ する（施工箇所： ） ・ しない</div>	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用			・ 有り (加工： ・天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級： )	・ 適用する ・ 適用しない	施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理の適用			・ 有り (加工：天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級： )	※14%以下 ・	・ 適用する ・ 適用しない	施工箇所	品名	曲げ性能 (強度等級)	種別	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法 (mm)																											
施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	防虫処理の適用																																																		
		・ 有り (加工： ・天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級： )	・ 適用する ・ 適用しない																																																		
施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理の適用																																																	
		・ 有り (加工：天然木化粧加工・塗装加工) ・ 無し (等級： )	※14%以下 ・	・ 適用する ・ 適用しない																																																	
施工箇所	品名	曲げ性能 (強度等級)	種別	接着性能 (使用環境)	樹種	寸法 (mm)																																															

章

6

内装改修工事

項目

8 合板等

特記事項

[6. 5. 2]

ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外

・ 普通合板

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理の適用
	※5.5		※1 類 ・ 2 類	広葉樹 ※2 等以上 針葉樹 ※C-D 以上	・ 適用する ・ 適用しない
	・			・	

間伐材等の適用

・ する (施工箇所： )

・ しない

・ 構造用合板

施工箇所	厚さ (mm)	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	強度等級	防虫処理の適用
	※12	※2級以上 ・ 1 級		※1 類 ・ 特類	※C-D 以上	・ 適用する ( ) ・ 適用しない	・ 適用する ・ 適用しない
	・				・		

間伐材等の適用

・ する (施工箇所： )

・ しない

・ 「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用
			※1 類 ・ 特類	・ 適用する ・ 適用しない

間伐材等の適用

・ する (施工箇所： )

・ しない

・ 「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	厚さ (mm)	化粧板に使用する単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用
			・ 1 類 ・ 2 類	・ 適用する ( )

間伐材等の適用

・ する (施工箇所： )

・ しない

・ 「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ (mm)	表面性能	化粧加工の方法	接着の程度	防虫処理の適用
				・ 1 類 ・ 2 類	・ 適用する ( )

間伐材等の適用

・ する (施工箇所： )

・ しない

・ パーティクルボード

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
	※15		※13 タイプ	※P 又は M	
	・		・	・	

・ 構造用パネル

施工箇所	厚さ (mm)	等級
		・ 1 級 ・ 2 級 ・ 3 級 ・ 4 級
		・ 1 級 ・ 2 級 ・ 3 級 ・ 4 級

章	項 目	特 記 事 項																														
6 内装改修工事	8 合板等	<div>・ MDF</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>表裏面の状態 による区分</th><th>曲げ強さ による区分</th><th>接着剤 による区分</th><th>難燃性 による区分</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>間伐材等の適用          ・ する（施工箇所：                      ）          ・ しない</div>	施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	接着剤 による区分	難燃性 による区分																								
	施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態 による区分	曲げ強さ による区分	接着剤 による区分	難燃性 による区分																										
9 接着剤	<div>[6. 5. 3] [6. 5. 4] [6. 8. 2] [6. 9. 3] [6. 11. 4] [6. 11. 5]</div> <div>接着剤のホルムアルデヒドの放散量</div> <div>※規制対象外                      ・</div> <div>接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていないものとする。</div> <div>施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別</div> <div>・ 図示                      ・</div>																															
10 防腐・防蟻処理	<div>[6. 5. 5]</div> <div>・ 防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材</div> <div>適用部位：（                      ）</div> <div>・ 薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理</div> <table><tr><th>適用部材</th><th colspan="3">保存処理性能区分</th></tr><tr><td></td><td>・ K2</td><td>・ K3</td><td>・ K4</td></tr><tr><td></td><td>・ K2</td><td>・ K3</td><td>・ K4</td></tr><tr><td></td><td>・ K2</td><td>・ K3</td><td>・ K4</td></tr></table> <div>・ 薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理</div> <table><tr><th>適用部材</th><th>処理の方法</th><th>薬剤の種類</th></tr><tr><td></td><td>※改修標準仕様書 6. 5. 5(1) (b) ②ア～Iによる</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・</td><td></td></tr></table> <div>・ 薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理</div> <div>適用部位：（                      ）</div>	適用部材	保存処理性能区分				・ K2	・ K3	・ K4		・ K2	・ K3	・ K4		・ K2	・ K3	・ K4	適用部材	処理の方法	薬剤の種類		※改修標準仕様書 6. 5. 5(1) (b) ②ア～Iによる			・			・			・	
適用部材	保存処理性能区分																															
	・ K2	・ K3	・ K4																													
	・ K2	・ K3	・ K4																													
	・ K2	・ K3	・ K4																													
適用部材	処理の方法	薬剤の種類																														
	※改修標準仕様書 6. 5. 5(1) (b) ②ア～Iによる																															
	・																															
	・																															
	・																															
11 軽量鉄骨天井下地	<div>[6. 6. 2～6. 6. 4]</div> <div>野縁等の種類</div> <div>屋外    ※25 形          ・ 19 形</div> <div>屋内    ※19 形          ・ 25 形</div> <div>・ 屋外の軒天井、ピロティ天井等</div> <div>工法</div> <div>1-1 適用区分による風圧力の（ ・ 1   ・ 1. 15   ・ 1. 3）倍の風圧力に対応した工法</div> <div>野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔          ◎図示          ・</div> <div>周辺部の端からの間隔                                  ◎図示          ・</div> <div>野縁の間隔    ◎図示          ・</div> <div>既存の埋込インサート          ◎使用する          ・ 使用しない</div>																															



章	項 目	特 記 事 項							
6 内装改修工事	11 軽量鉄骨天井下地	あと施工アンカーの引抜き試験 ◎行う 試験箇所数 ※屋内の場合、当該階において 3 箇所 ・ 箇所 確認強度 ※吊りボルト受け等の間隔が 900 mm程度以下かつ天井面積構成部材等の単位面積あたりの質量が 20kg/m <sup>2</sup> 以内の天井の場合は 400N 程度 ・ N ・ 行わない  ・ 吊りボルトの間隔が 900mm を超える場合 補強方法 ※図示 ・  ・ 天井のふところが 1.5m 以上 3.0m 以下の場合 補強方法 ※改修標準仕様書 6. 6. 4(8) (7) (イ)による ・ 図示  ・ 天井のふところが 3.0m を超える場合 補強方法 ※図示 ・  ・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※図示 ・ 補強方法 ※図示 ・							
	12 軽量鉄骨壁下地	[6. 7. 3] [6. 7. 4] [表 6. 7. 1] スタッド、ランナーの種類 ※改修標準仕様書 表 6. 7. 1 によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・ 図示  スタッドの高さが 5.0m を超える場合 ※図示 ・  出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※改修標準仕様書 6. 7. 4(5)による ・							
	13 ビニル床シート	[6. 8. 2] [6. 8. 3] <table><tr><th>種類の記号</th><th>色柄</th><th>厚さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※FS (複層ビニル床シート) ・</td><td>・ 無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物</td><td>※2.0 ・ 2.5</td><td>溶接</td></tr></table> 目地処理する場合の工法 ※熱溶接工法 ・	種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考	※FS (複層ビニル床シート) ・	・ 無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物	※2.0 ・ 2.5
種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考						
※FS (複層ビニル床シート) ・	・ 無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物	※2.0 ・ 2.5	溶接						

6

内装改修工事

項目

特記事項

14

ビニル床タイル

[6.8.2]

種類の記号	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考
※KT(コンポジションビニル床タイル) ・TT(単層ビニル床タイル) ・FT(複層ビニル床タイル) ・FOA(置敷きビニル床タイル) ・FOB(薄型置敷きビニル床タイル)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	・2.0 ・2.5 ・3.0	

15

特殊機能床

[6.8.2]

	厚さ、寸法、形状	性能	種類
・帯電防止床シート	(mm)		
・帯電防止床タイル	× (mm)		
・視覚障害者用床タイル	(mm)		
・耐動荷重性床シート	(mm)		
・防滑性床シート	(mm)		
・防滑性床タイル	× (mm)		

視覚障害者用床タイル 突起の形状、寸法及びその配列は JIS T 9521 による

16

ビニル幅木

[6.8.2]

材質	◎軟質	・硬質
高さ(mm)	※60	・75    ・100
厚さ(mm)	※1.5以上	・

17

ゴム床タイル

[6.8.2]

種類	( )
色柄	( )
厚さ(mm)	・3.0    ・4.5    ・6.0    ・9.0
寸法(mm)	( )

章	項 目	特 記 事 項																																										
6 内装改修工事	18 カーペット敷き	[6. 9. 2] [6. 9. 3] [表 6. 9. 1] <div>・ 織じゅうたん</div> <table><tr><th>織り方</th><th>パイル形状</th></tr><tr><td><div>・ ウェルトンカーペット</div><div>・ ダブルフェースカーペット</div><div>・ アキスミンスターカーペット</div></td><td><div>・ カットパイル</div><div>・ ループパイル</div><div>・ カット、ループ併用</div></td></tr></table> <div>色柄<div>※模様のない無地</div></div> <div>パイル糸の種類<div>※標準仕様書表 19. 3. 1 による（種別<div>・ A 種</div><div>・ B 種</div><div>・ C 種</div></div></div> <div>帯電性<div>・ 適用する</div><div>・ 適用しない</div></div> <div>織じゅうたんの接合方法<div>※ヒートボンド工法</div></div> <div>下敷き材<div>※反毛フェルト (JIS L 3204) の第 2 種 2 号 呼び厚さ 8mm</div></div> <div>・ タフテッドカーペット</div> <table><tr><th>パイル形状</th><th>パイル長さ (mm)</th><th>工法</th><th>帯電性</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ カットパイル</td><td>・</td><td rowspan="3"><div>・ 全面接着工法</div><div>・ グリッパ-工法</div></td><td rowspan="3"><div>・ 適用する</div><div>・ 適用しない</div></td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>・ ループパイル</td><td>・</td></tr><tr><td>・ カット、ループ 併用</td><td>・</td></tr></table> <div>下敷き材（グリッパ-工法の場合）<div>※反毛フェルト（JIS L 3204）の第 2 種 2 号 呼び厚さ 8mm</div></div> <div>・ ニードルパンチカーペット</div> <div>厚さ (mm)（）</div> <div>帯電性<div>・ 適用する（性能：※人体帯電圧 3kv 以下</div><div>・ 適用しない</div></div> <div>備考（）</div> <div>◎タイルカーペット</div> <table><tr><th>パイル形状</th><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>寸法</th><th>総厚さ (mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>※ループパイル</td><td>※第一種 ・ 第二種</td><td></td><td>※500×500 ・</td><td>※6. 5 ・</td><td></td></tr><tr><td>・ カットパイル</td><td>・ 第一種 ・ 第二種</td><td></td><td>※500×500 ・</td><td>※6. 5 ・</td><td></td></tr><tr><td>・ カット、ループ 併用</td><td>・ 第一種 ・ 第二種</td><td></td><td>※500×500 ・</td><td>※6. 5 ・</td><td></td></tr></table> <div>タイルカーペットの敷き方<div>平場<div>※市松敷き</div><div>階段部分<div>※模様流し</div><div>市松敷き</div></div></div><div>見切り、押え金物<div>材質（）</div><div>種類（）</div><div>形状等<div>※図示</div></div></div></div>	織り方	パイル形状	<div>・ ウェルトンカーペット</div> <div>・ ダブルフェースカーペット</div> <div>・ アキスミンスターカーペット</div>	<div>・ カットパイル</div> <div>・ ループパイル</div> <div>・ カット、ループ併用</div>	パイル形状	パイル長さ (mm)	工法	帯電性	備考	・ カットパイル	・	<div>・ 全面接着工法</div> <div>・ グリッパ-工法</div>	<div>・ 適用する</div> <div>・ 適用しない</div>		・ ループパイル	・	・ カット、ループ 併用	・	パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ (mm)	備考	※ループパイル	※第一種 ・ 第二種		※500×500 ・	※6. 5 ・		・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※500×500 ・	※6. 5 ・		・ カット、ループ 併用	・ 第一種 ・ 第二種		※500×500 ・	※6. 5 ・	
	織り方	パイル形状																																										
	<div>・ ウェルトンカーペット</div> <div>・ ダブルフェースカーペット</div> <div>・ アキスミンスターカーペット</div>	<div>・ カットパイル</div> <div>・ ループパイル</div> <div>・ カット、ループ併用</div>																																										
	パイル形状	パイル長さ (mm)	工法	帯電性	備考																																							
	・ カットパイル	・	<div>・ 全面接着工法</div> <div>・ グリッパ-工法</div>	<div>・ 適用する</div> <div>・ 適用しない</div>																																								
	・ ループパイル	・																																										
	・ カット、ループ 併用	・																																										
	パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ (mm)	備考																																						
	※ループパイル	※第一種 ・ 第二種		※500×500 ・	※6. 5 ・																																							
	・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※500×500 ・	※6. 5 ・																																							
・ カット、ループ 併用	・ 第一種 ・ 第二種		※500×500 ・	※6. 5 ・																																								

章	項 目	特 記 事 項																																																											
6 内装改修工事	19 合成樹脂塗床	<div><div>[6.10.2][6.10.3]</div><table><tr><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>工法</th><th>仕上げの種類</th></tr><tr><td>・厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床)</td><td></td><td></td><td>※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ</td></tr><tr><td>・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)</td><td></td><td>・薄膜流しのベ工法 ・厚膜流しのベ工法 ・樹脂モルタル工法</td><td>・平滑仕上げ ・防滑仕上げ</td></tr><tr><td>・薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)</td><td></td><td></td><td>※平滑仕上げ</td></tr><tr><td>・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)</td><td></td><td>※製造所の指定による</td><td>表面仕上げ ※平滑 溶剤 ※水性</td></tr></table><div>塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外</div></div>	種別	施工箇所	工法	仕上げの種類	・厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床)			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ	・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)		・薄膜流しのベ工法 ・厚膜流しのベ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ	・薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)			※平滑仕上げ	・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)		※製造所の指定による	表面仕上げ ※平滑 溶剤 ※水性																																							
	種別	施工箇所	工法	仕上げの種類																																																									
・厚膜型塗床材 (弾性ウレタン樹脂系塗床)			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ																																																										
・厚膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)		・薄膜流しのベ工法 ・厚膜流しのベ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ																																																										
・薄膜型塗床材 (エポキシ樹脂系塗床)			※平滑仕上げ																																																										
・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)		※製造所の指定による	表面仕上げ ※平滑 溶剤 ※水性																																																										
20 フローリング張り	<div><div>[6.11.2～6.11.6]</div><div>単層フローリング ・フローリングボード1等</div><table><tr><td>工法</td><td colspan="3">・釘止め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法</td></tr><tr><td>樹種</td><td>※なら</td><td colspan="2">・</td></tr><tr><td>厚さ、大きさ</td><td colspan="3">※改修標準仕様書 表 6.11.1 による</td></tr><tr><td>仕上塗装</td><td>・塗装品</td><td colspan="2">・無塗装品</td></tr><tr><td>間伐材等の適用</td><td>・適用する</td><td colspan="2">・適用しない</td></tr></table><div>・フローリングブロック1等</div><table><tr><td>工法</td><td colspan="3">※接着工法</td></tr><tr><td>樹種</td><td>※なら</td><td colspan="2">・</td></tr><tr><td>厚さ、大きさ</td><td colspan="3">※改修標準仕様書 表 6.11.1 による</td></tr><tr><td>仕上塗装</td><td>・塗装品</td><td colspan="2">・無塗装品</td></tr><tr><td>間伐材等の適用</td><td>・適用する</td><td colspan="2">・適用しない</td></tr></table><div>複合フローリング ・天然木化粧複合フローリング</div><table><tr><td>工法</td><td colspan="3">・釘止め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法</td></tr><tr><td>樹種</td><td>※なら</td><td colspan="2">・</td></tr><tr><td>種別(表 19.5.2)</td><td>・A 種</td><td>・B 種</td><td>・C 種</td></tr><tr><td>仕上塗装</td><td>・塗装品</td><td colspan="2">・無塗装品</td></tr><tr><td>間伐材等の適用</td><td>・適用する</td><td colspan="2">・適用しない</td></tr></table><div>フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート ・現場塗装仕上げ ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ワックス塗り ・生地そのままワックス塗り</div></div>	工法	・釘止め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法			樹種	※なら	・		厚さ、大きさ	※改修標準仕様書 表 6.11.1 による			仕上塗装	・塗装品	・無塗装品		間伐材等の適用	・適用する	・適用しない		工法	※接着工法			樹種	※なら	・		厚さ、大きさ	※改修標準仕様書 表 6.11.1 による			仕上塗装	・塗装品	・無塗装品		間伐材等の適用	・適用する	・適用しない		工法	・釘止め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法			樹種	※なら	・		種別(表 19.5.2)	・A 種	・B 種	・C 種	仕上塗装	・塗装品	・無塗装品		間伐材等の適用	・適用する	・適用しない	
工法	・釘止め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法																																																												
樹種	※なら	・																																																											
厚さ、大きさ	※改修標準仕様書 表 6.11.1 による																																																												
仕上塗装	・塗装品	・無塗装品																																																											
間伐材等の適用	・適用する	・適用しない																																																											
工法	※接着工法																																																												
樹種	※なら	・																																																											
厚さ、大きさ	※改修標準仕様書 表 6.11.1 による																																																												
仕上塗装	・塗装品	・無塗装品																																																											
間伐材等の適用	・適用する	・適用しない																																																											
工法	・釘止め工法 (・根太張り ・直張り) ・接着工法																																																												
樹種	※なら	・																																																											
種別(表 19.5.2)	・A 種	・B 種	・C 種																																																										
仕上塗装	・塗装品	・無塗装品																																																											
間伐材等の適用	・適用する	・適用しない																																																											
21 畳敷き	<div><div>[6.12.2]</div><div>種別 ・A 種 ・B 種 ・C 種 ・D 種 (畳床: ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N) 下地の種類 ・標準仕様書 表 12.6.1 による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン) ・</div><div>畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ない材料を使用したものとする。</div></div>																																																												

章	項 目	特 記 事 項																																										
6 内装改修工事	22 せっこうボード その他ボード及び 合板張り	[6.13.2] [6.13.3] 適用は以下によるほか、図示による。 合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外  木質系セメント板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>・硬質木毛セメント板</td><td>◎15    ・20    ・25    ・</td></tr><tr><td>・中質木毛セメント板</td><td>・15    ・20    ・25    ・</td></tr><tr><td>・普通木毛セメント板</td><td>・15    ・20    ・25    ・</td></tr><tr><td>・硬質木片セメント板</td><td>・12    ・15    ・18    ・21    ・</td></tr><tr><td>・普通木片セメント板</td><td>・30    ・</td></tr></table>  繊維強化セメント板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>・けい酸カルシウム板</td><td>タイプ2（無石綿）    ・6    ・8</td></tr></table>  火山性ガラス質複層板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>・火山性ガラス質複層板</td><td></td></tr></table>  繊維板 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>・ハートボード（素地）</td><td>・未研磨板（・スタンダード    ・テンパード）RN ・研磨板    （・スタンダード    ・テンパード）RS</td></tr><tr><td>・ハートボード（化粧）</td><td>・内装用 DI    ・外装用 DE ・2.5    ・3.5    ・5    ・7</td></tr><tr><td>・ミディアムデンティファイバーボード</td><td>・3    ・7    ・9    ・12</td></tr><tr><td>・インシュレーションボード</td><td>A級（・天然仕上げ    ・内装仕上げ    ・ ・9    ・12    ・15    ・18</td></tr></table>  パーティクルボード <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>・単板張りパーティクルボード</td><td>・無研磨板 VN    ・研磨板 VS ・10    ・12    ・15    ・18    ・</td></tr><tr><td>・化粧パーティクルボード</td><td>・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ D0 ・塗装 DC ・10（難燃）    ・12（難燃）    ・</td></tr></table>  吸音材料 <table><tr><th>種類</th><th>厚さ(mm)、規格等</th></tr><tr><td>◎ロックウール化粧吸音板</td><td>・フラットタイプ （・9（不燃）    ◎12（不燃）    ・ ・凹凸タイプ（・12（不燃）    ・15（不燃）    ・ ・ロックウール吸音ボード 1号</td></tr><tr><td>・グラスウール吸音ボード 32K</td><td>・25    ・</td></tr></table>	種類	厚さ(mm)、規格等	・硬質木毛セメント板	◎15    ・20    ・25    ・	・中質木毛セメント板	・15    ・20    ・25    ・	・普通木毛セメント板	・15    ・20    ・25    ・	・硬質木片セメント板	・12    ・15    ・18    ・21    ・	・普通木片セメント板	・30    ・	種類	厚さ(mm)、規格等	・けい酸カルシウム板	タイプ2（無石綿）    ・6    ・8	種類	厚さ(mm)、規格等	・火山性ガラス質複層板		種類	厚さ(mm)、規格等	・ハートボード（素地）	・未研磨板（・スタンダード    ・テンパード）RN ・研磨板    （・スタンダード    ・テンパード）RS	・ハートボード（化粧）	・内装用 DI    ・外装用 DE ・2.5    ・3.5    ・5    ・7	・ミディアムデンティファイバーボード	・3    ・7    ・9    ・12	・インシュレーションボード	A級（・天然仕上げ    ・内装仕上げ    ・ ・9    ・12    ・15    ・18	種類	厚さ(mm)、規格等	・単板張りパーティクルボード	・無研磨板 VN    ・研磨板 VS ・10    ・12    ・15    ・18    ・	・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ D0 ・塗装 DC ・10（難燃）    ・12（難燃）    ・	種類	厚さ(mm)、規格等	◎ロックウール化粧吸音板	・フラットタイプ （・9（不燃）    ◎12（不燃）    ・ ・凹凸タイプ（・12（不燃）    ・15（不燃）    ・ ・ロックウール吸音ボード 1号	・グラスウール吸音ボード 32K	・25    ・
		種類	厚さ(mm)、規格等																																									
		・硬質木毛セメント板	◎15    ・20    ・25    ・																																									
		・中質木毛セメント板	・15    ・20    ・25    ・																																									
		・普通木毛セメント板	・15    ・20    ・25    ・																																									
		・硬質木片セメント板	・12    ・15    ・18    ・21    ・																																									
		・普通木片セメント板	・30    ・																																									
		種類	厚さ(mm)、規格等																																									
		・けい酸カルシウム板	タイプ2（無石綿）    ・6    ・8																																									
		種類	厚さ(mm)、規格等																																									
		・火山性ガラス質複層板																																										
		種類	厚さ(mm)、規格等																																									
・ハートボード（素地）	・未研磨板（・スタンダード    ・テンパード）RN ・研磨板    （・スタンダード    ・テンパード）RS																																											
・ハートボード（化粧）	・内装用 DI    ・外装用 DE ・2.5    ・3.5    ・5    ・7																																											
・ミディアムデンティファイバーボード	・3    ・7    ・9    ・12																																											
・インシュレーションボード	A級（・天然仕上げ    ・内装仕上げ    ・ ・9    ・12    ・15    ・18																																											
種類	厚さ(mm)、規格等																																											
・単板張りパーティクルボード	・無研磨板 VN    ・研磨板 VS ・10    ・12    ・15    ・18    ・																																											
・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ D0 ・塗装 DC ・10（難燃）    ・12（難燃）    ・																																											
種類	厚さ(mm)、規格等																																											
◎ロックウール化粧吸音板	・フラットタイプ （・9（不燃）    ◎12（不燃）    ・ ・凹凸タイプ（・12（不燃）    ・15（不燃）    ・ ・ロックウール吸音ボード 1号																																											
・グラスウール吸音ボード 32K	・25    ・																																											

章	項 目	特 記 事 項																																		
6 内装改修工事	22 せっこうボード その他ボード及び 合板張り	<table><tr><td colspan="2">せっこうボード製品</td></tr><tr><td>・ せっこうボ ード</td><td>◎12.5（不燃） ・ 15（不燃） ・</td></tr><tr><td>・ 不燃積層せっこうボ ード</td><td>9.5（不燃） ・ 化粧有（下地張り用） ・ 化粧無（トラバ ーチン模様）</td></tr><tr><td>・ シーゾグ せっこうボ ード</td><td>12.5（※不燃 ・ 準不燃）</td></tr><tr><td>・ 強化せっこうボ ード</td><td>・ 12.5（不燃） ・ 15（不燃）</td></tr><tr><td>・ せっこうラボ ード</td><td>◎9.5</td></tr><tr><td>・ 化粧せっこうボ ード（木目）</td><td>12.5（不燃） 幅 440 mm程度 模様（・ 柱目 ・ 板目）専用下地材有り</td></tr><tr><td>・ 化粧せっこうボ ード （トラバ ーチン模様）</td><td>9.5（不燃）</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2">合板、化粧板</td></tr><tr><td>種類</td><td>厚さ（mm）、規格等</td></tr><tr><td>・ 普通合板</td><td>表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ワッ ン程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） ・ 防虫処理</td></tr><tr><td>・ 天然木化粧合板</td><td>化粧板の樹種名（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） 厚さ（mm）（ ） ・ 防虫処理</td></tr><tr><td>・ 特殊加工化粧合板</td><td>化粧加工の方法（・ オバ ーレイ ・ プ リ ント ・ 塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） 厚さ（mm）（ ） ・ 防虫処理</td></tr><tr><td>・ マリ ン樹脂化粧板</td><td>JIS K 6903 による厚さ（※1.2 ・ ）</td></tr><tr><td>・ ポ リ エス テル樹脂化粧板</td><td></td></tr></table> <table><tr><td>せっこうボード等の下地 遮音シール材</td><td>※図示 ・ 適用する（・ シーリング材・ ジョイ ントコンパウンド） ・ 適用しない</td></tr><tr><td>合板類の張付け せっこうボードの目地工法</td><td>※B 種 ・ A 種 ・ 仕上表による ・</td></tr></table>	せっこうボード製品		・ せっこうボ ード	◎12.5（不燃） ・ 15（不燃） ・	・ 不燃積層せっこうボ ード	9.5（不燃） ・ 化粧有（下地張り用） ・ 化粧無（トラバ ーチン模様）	・ シーゾグ せっこうボ ード	12.5（※不燃 ・ 準不燃）	・ 強化せっこうボ ード	・ 12.5（不燃） ・ 15（不燃）	・ せっこうラボ ード	◎9.5	・ 化粧せっこうボ ード（木目）	12.5（不燃） 幅 440 mm程度 模様（・ 柱目 ・ 板目）専用下地材有り	・ 化粧せっこうボ ード （トラバ ーチン模様）	9.5（不燃）	合板、化粧板		種類	厚さ（mm）、規格等	・ 普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ワッ ン程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） ・ 防虫処理	・ 天然木化粧合板	化粧板の樹種名（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） 厚さ（mm）（ ） ・ 防虫処理	・ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法（・ オバ ーレイ ・ プ リ ント ・ 塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） 厚さ（mm）（ ） ・ 防虫処理	・ マリ ン樹脂化粧板	JIS K 6903 による厚さ（※1.2 ・ ）	・ ポ リ エス テル樹脂化粧板		せっこうボード等の下地 遮音シール材	※図示 ・ 適用する（・ シーリング材・ ジョイ ントコンパウンド） ・ 適用しない	合板類の張付け せっこうボードの目地工法	※B 種 ・ A 種 ・ 仕上表による ・
	せっこうボード製品																																			
・ せっこうボ ード	◎12.5（不燃） ・ 15（不燃） ・																																			
・ 不燃積層せっこうボ ード	9.5（不燃） ・ 化粧有（下地張り用） ・ 化粧無（トラバ ーチン模様）																																			
・ シーゾグ せっこうボ ード	12.5（※不燃 ・ 準不燃）																																			
・ 強化せっこうボ ード	・ 12.5（不燃） ・ 15（不燃）																																			
・ せっこうラボ ード	◎9.5																																			
・ 化粧せっこうボ ード（木目）	12.5（不燃） 幅 440 mm程度 模様（・ 柱目 ・ 板目）専用下地材有り																																			
・ 化粧せっこうボ ード （トラバ ーチン模様）	9.5（不燃）																																			
合板、化粧板																																				
種類	厚さ（mm）、規格等																																			
・ 普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ワッ ン程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ（mm）（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） ・ 防虫処理																																			
・ 天然木化粧合板	化粧板の樹種名（ ） 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） 厚さ（mm）（ ） ・ 防虫処理																																			
・ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法（・ オバ ーレイ ・ プ リ ント ・ 塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・ 1 類 ・ 2 類） 厚さ（mm）（ ） ・ 防虫処理																																			
・ マリ ン樹脂化粧板	JIS K 6903 による厚さ（※1.2 ・ ）																																			
・ ポ リ エス テル樹脂化粧板																																				
せっこうボード等の下地 遮音シール材	※図示 ・ 適用する（・ シーリング材・ ジョイ ントコンパウンド） ・ 適用しない																																			
合板類の張付け せっこうボードの目地工法	※B 種 ・ A 種 ・ 仕上表による ・																																			
23 断熱・防露改修工事	<div>[9.5.2～9.5.4]</div> <p>フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・</p> <p>・ 断熱材打込み工法 断熱材 JIS A 9521 に基づく発砲プラスチック断熱材 種類 ・ 厚さ（mm） ・ 施工場所 ・</p> <p>・ 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ・ A 種 1 ・ A 種 1H 厚さ（mm） ・ 25 ・ 30 ・ 施工箇所 ・ 図示 ・ 現場発泡断熱材 （品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による</p>																																			

章	項 目	特 記 事 項																
6 内装改修工事	23 断熱・防露改修工事	・断熱材後張り工法 断熱材 JIS A 9521 に基づく発砲プラスチック断熱材 種類 ( ) 厚さ(mm) ( ) ・断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル 材質 ( ) 厚さ(mm) ( )																
	24 壁紙張り	<div style="text-align: right;">[6. 14. 2] [6. 14. 3]</div> <div>ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外</div> <table><tr><th>施工箇所</th><th>壁紙の種類</th><th>防火性能</th><th>備考</th></tr><tr><td>壁</td><td>・紙 ・繊維 ◎プラスチック ・無機質・その他</td><td>※不燃 ・準不燃 ・難燃</td><td></td></tr><tr><td>天井</td><td>・紙 ・繊維 ◎プラスチック ・無機質・その他</td><td>※不燃 ・準不燃 ・難燃</td><td></td></tr><tr><td></td><td>・紙 ・繊維 ・プラスチック ・無機質・その他</td><td>※不燃 ・準不燃 ・難燃</td><td></td></tr></table> <div>モルタル・プラスター面の下地調整 ※RB 種 ・ コンクリート・ALC 面の下地調整 ※RB 種 ・ せっこうボード面の下地調整 ※RB 種 ・</div>	施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考	壁	・紙 ・繊維 ◎プラスチック ・無機質・その他	※不燃 ・準不燃 ・難燃		天井	・紙 ・繊維 ◎プラスチック ・無機質・その他	※不燃 ・準不燃 ・難燃			・紙 ・繊維 ・プラスチック ・無機質・その他	※不燃 ・準不燃 ・難燃	
	施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考														
壁	・紙 ・繊維 ◎プラスチック ・無機質・その他	※不燃 ・準不燃 ・難燃																
天井	・紙 ・繊維 ◎プラスチック ・無機質・その他	※不燃 ・準不燃 ・難燃																
	・紙 ・繊維 ・プラスチック ・無機質・その他	※不燃 ・準不燃 ・難燃																
25 モルタル塗り	<div style="text-align: right;">[6. 15. 3] [6. 15. 5、6. 15. 6]</div> <div>既製目地材 ・設ける 施工箇所 ( ) 形状(※図示 ・ ) ・設けない モルタル ◎現場調合材料 ・既調合材料 ( ) 床の目地 ・設ける 目地割り ※2 m<sup>2</sup>程度(最大目地間隔 3m 程度) ・ 種類 ※押し目地 ・ ・設けない  ・防水剤 (品質・性能及び試験方法) 建築材料等品質性能表による・</div>																	

章	項 目	特 記 事 項				
6 内装改修工事	26 セメントモルタルによるタイル張り	[6. 16. 2～6. 16. 4] 伸縮調整目地の位置 床タイル ※縦、横とも 4m 以内ごと ・図示 ・ 床タイル以外 ・図示 ・				
	タイルの形状、寸法等					
	施工箇所	バルコニー				
	形状寸法 (mm)					
	再生材料	・適用する	・適用する	・適用する	・適用する	
	吸水率による区分	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	
	うわぐすり	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	
	役物	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	
	色	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	
	耐凍害性	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	
耐滑り性	・	・	・	・		
備考						
標準的な曲がりの役物は一体成形とする						
試験張り ・行う ・行わない 見本焼き ・行う ・行わない						
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理 ・MRC 工法 ・目荒し工法（高圧水洗処理） ・						
壁タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り						
・既調合モルタル モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 （品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による						
・既調合目地材 （品質・性能及び試験方法） 建築材料等品質性能表による						



章	項 目	特 記 事 項																																																					
6 内装改修工事	27 有機系接着剤による タイル張り	[6. 16. 2～6. 16. 4] 伸縮調整目地の位置 床タイル（※縦、横とも 4m 以内ごと ・ 図示 ・ ） 床タイル以外（ ・ 図示 ・ ）  タイルの形状、寸法等 <table><tr><td>施工箇所</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>形状寸法 (mm)</td><td>300</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>再生材料</td><td>・ 適用する</td><td>・ 適用する</td><td>・ 適用する</td><td>・ 適用する</td></tr><tr><td>吸水率による 区分</td><td>◎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td><td>・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td></tr><tr><td>うわぐすり</td><td>◎有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td></tr><tr><td>役物</td><td>◎有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td></tr><tr><td>色</td><td>◎標準 ・特注</td><td>・標準 ・特注</td><td>・標準 ・特注</td><td>・標準 ・特注</td></tr><tr><td>耐凍害性</td><td>◎有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td><td>・有 ・無</td></tr><tr><td>耐滑り性</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td>備考</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 標準的な曲がりの役物は一体成形とする  試験張り ・行う ◎行わない 見本焼き ・行う ◎行わない 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・  モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ・ MRC 工法 ・ 目荒し工法（高圧水洗処理） ・  目地のシーリング材 打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・ ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・ 伸縮調整目地 ※変性シリコーン系シーリング材 ・ その他の目地 ※変性シリコーン系シーリング材 ・				施工箇所					形状寸法 (mm)	300				再生材料	・ 適用する	・ 適用する	・ 適用する	・ 適用する	吸水率による 区分	◎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	うわぐすり	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	役物	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	色	◎標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	耐凍害性	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	耐滑り性	・	・	・	・	備考				
	施工箇所																																																						
形状寸法 (mm)	300																																																						
再生材料	・ 適用する	・ 適用する	・ 適用する	・ 適用する																																																			
吸水率による 区分	◎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																																																			
うわぐすり	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無																																																			
役物	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無																																																			
色	◎標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注	・標準 ・特注																																																			
耐凍害性	◎有 ・無	・有 ・無	・有 ・無	・有 ・無																																																			
耐滑り性	・	・	・	・																																																			
備考																																																							
	28 セルフレベリング材 塗り	[6. 17. 2] [6. 17. 3] 種類及び品質 ・ せっこう系 ・ セメント系 標準塗厚 (mm) ・																																																					

章	項 目	特 記 事 項																																										
7 塗装改修工事	1 材料	[7. 1. 3] 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 仕上げ表による																																										
	2 下地調整	[7. 2. 1～7. 2. 7] 塗替え RB 種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※塗替え面積の 30%      ・ 図示      ・  既存錆止め塗料の鉛含有調査      ・ 行う（      箇所）      ◎行わない  下地調整 <table><tr><th rowspan="2">下地面の種類</th><th colspan="2">下地調整の種別</th><th rowspan="2">ひび割れ部の補修</th></tr><tr><th>塗替え</th><th>新規</th></tr><tr><td>木部</td><td>※RB 種      ・</td><td>・ RA 種      ・ RB 種</td><td>－</td></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td>※RB 種      ・</td><td>RA 種</td><td>－</td></tr><tr><td>亜鉛めっき鋼面</td><td>※RB 種      ・</td><td>RA 種</td><td>－</td></tr><tr><td>亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）</td><td>※RB 種      ・</td><td>RC 種</td><td>－</td></tr><tr><td>モルタル、プaster面</td><td>※RB 種      ・</td><td>・ RA 種      ・ RB 種</td><td>・ 行う ・ 行わない</td></tr><tr><td>コンクリート面（DP以外）、ALCパネル面</td><td>※RB 種      ・</td><td>RA 種</td><td>・ 行う ・ 行わない</td></tr><tr><td>押出成形セメント板面</td><td>・ RA 種      ・ RB 種 ・ RC 種</td><td>・ RA 種      ・ RB 種</td><td>・ 行う ・ 行わない</td></tr><tr><td>コンクリート面（DP）</td><td>・ RB 種      ・ RC 種</td><td>RA 種</td><td>・ 行う ・ 行わない</td></tr><tr><td>せっこうボード面及びその他ボード面</td><td>※RB 種      ・</td><td>・ RA 種      ・ RB 種</td><td>－</td></tr></table>	下地面の種類	下地調整の種別		ひび割れ部の補修	塗替え	新規	木部	※RB 種      ・	・ RA 種      ・ RB 種	－	鉄鋼面	※RB 種      ・	RA 種	－	亜鉛めっき鋼面	※RB 種      ・	RA 種	－	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）	※RB 種      ・	RC 種	－	モルタル、プaster面	※RB 種      ・	・ RA 種      ・ RB 種	・ 行う ・ 行わない	コンクリート面（DP以外）、ALCパネル面	※RB 種      ・	RA 種	・ 行う ・ 行わない	押出成形セメント板面	・ RA 種      ・ RB 種 ・ RC 種	・ RA 種      ・ RB 種	・ 行う ・ 行わない	コンクリート面（DP）	・ RB 種      ・ RC 種	RA 種	・ 行う ・ 行わない	せっこうボード面及びその他ボード面	※RB 種      ・	・ RA 種      ・ RB 種	－
	下地面の種類	下地調整の種別		ひび割れ部の補修																																								
塗替え		新規																																										
木部	※RB 種      ・	・ RA 種      ・ RB 種	－																																									
鉄鋼面	※RB 種      ・	RA 種	－																																									
亜鉛めっき鋼面	※RB 種      ・	RA 種	－																																									
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）	※RB 種      ・	RC 種	－																																									
モルタル、プaster面	※RB 種      ・	・ RA 種      ・ RB 種	・ 行う ・ 行わない																																									
コンクリート面（DP以外）、ALCパネル面	※RB 種      ・	RA 種	・ 行う ・ 行わない																																									
押出成形セメント板面	・ RA 種      ・ RB 種 ・ RC 種	・ RA 種      ・ RB 種	・ 行う ・ 行わない																																									
コンクリート面（DP）	・ RB 種      ・ RC 種	RA 種	・ 行う ・ 行わない																																									
せっこうボード面及びその他ボード面	※RB 種      ・	・ RA 種      ・ RB 種	－																																									
3 錆止め塗料塗り		[7. 3. 2] [7. 3. 3] 錆止め塗料塗りの種別 <table><tr><th colspan="2">塗装面</th><th>塗料の種別</th><th>工程の種別</th></tr><tr><td rowspan="6">鉄鋼面</td><td rowspan="3">EP-G 以外</td><td>塗替え</td><td>A 種      ※C 種      ・</td></tr><tr><td>新規鉄鋼面見え掛け</td><td>A 種      ※A 種      ・</td></tr><tr><td>新規見え隠れ</td><td>A 種      ※B 種      ・</td></tr><tr><td rowspan="3">EP-G</td><td>塗替え</td><td>※B 種      ・ A 種      ※C 種      ・</td></tr><tr><td>新規鉄鋼面見え掛け</td><td>※B 種      ・ A 種      ※A 種      ・</td></tr><tr><td>新規見え隠れ</td><td>※B 種      ・ A 種      ※B 種      ・</td></tr><tr><td rowspan="4">亜鉛めっき面</td><td rowspan="2">EP-G 以外</td><td>塗替え</td><td>※A 種      ・ B 種      ※C 種      ・</td></tr><tr><td>新規鋼製建具等</td><td>※A 種      ・ B 種      ※A 種      ・</td></tr><tr><td rowspan="2">EP-G</td><td>塗替え</td><td>C 種      ※C 種      ・</td></tr><tr><td>新規鋼製建具等</td><td>C 種      ※A 種      ・</td></tr></table>	塗装面		塗料の種別	工程の種別	鉄鋼面	EP-G 以外	塗替え	A 種      ※C 種      ・	新規鉄鋼面見え掛け	A 種      ※A 種      ・	新規見え隠れ	A 種      ※B 種      ・	EP-G	塗替え	※B 種      ・ A 種      ※C 種      ・	新規鉄鋼面見え掛け	※B 種      ・ A 種      ※A 種      ・	新規見え隠れ	※B 種      ・ A 種      ※B 種      ・	亜鉛めっき面	EP-G 以外	塗替え	※A 種      ・ B 種      ※C 種      ・	新規鋼製建具等	※A 種      ・ B 種      ※A 種      ・	EP-G	塗替え	C 種      ※C 種      ・	新規鋼製建具等	C 種      ※A 種      ・												
塗装面		塗料の種別	工程の種別																																									
鉄鋼面	EP-G 以外	塗替え	A 種      ※C 種      ・																																									
		新規鉄鋼面見え掛け	A 種      ※A 種      ・																																									
		新規見え隠れ	A 種      ※B 種      ・																																									
	EP-G	塗替え	※B 種      ・ A 種      ※C 種      ・																																									
		新規鉄鋼面見え掛け	※B 種      ・ A 種      ※A 種      ・																																									
		新規見え隠れ	※B 種      ・ A 種      ※B 種      ・																																									
亜鉛めっき面	EP-G 以外	塗替え	※A 種      ・ B 種      ※C 種      ・																																									
		新規鋼製建具等	※A 種      ・ B 種      ※A 種      ・																																									
	EP-G	塗替え	C 種      ※C 種      ・																																									
		新規鋼製建具等	C 種      ※A 種      ・																																									

章		項 目		特 記 事 項				
7	4	塗装	[7. 4. 2～7. 14. 2]					
塗装改修工事			塗装の種類	塗装面		工程		
					塗替え	新規		
	◎合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 塗料の種類 ※1種 ・ 2種		木部屋外		※B種 ・	※A種 ・		
			木部屋内		※B種 ・	※B種 ・		
			鉄鋼面		※B種 ・	※B種 ・ A種		
			亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）		※A種 ・	※B種 ・		
			亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）		※B種 ・	※B種 ・		
	・ クリヤラッカー塗り（CL）				※B種 ・ A種	※B種 ・ A種		
	・ フタル酸樹脂エナメル塗り（FE）				—	—		
	・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）				※B種 ・ A種	※B種 ・ A種		
	◎耐候性塗料塗り（DP）		鉄鋼面 上塗り等級（ ）級		・	A種		
			亜鉛めっき鋼面 上塗り等級（ ）級		・	A種		
			コンクリート面及び押出成形セメント板面		・	・ A-1種 ・ B-1種 ・ C-1種		
	・ つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP-G）		コンクリート面等		※B種 ・	※B種 ・ A種		
			屋内の木部		※B種 ・	※A種 ・		
			屋内の鉄鋼面		※B種 ・	※B種 ・ A種		
			屋内の亜鉛めっき鋼面		※B種 ・	※B種 ・ A種		
	◎合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP）				※B種 ・	※B種 ・		
	・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り（EP-T）				※B種 ・	※B種 ・ A種		
	◎ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）				※B種 ・ A種	※B種 ・ A種		
	◎オイルステイン塗り（OS）（塗料 ・ 油性 ・ 水性）				—	—		
	・ 木材保護塗料塗り（WP）				※B種 ・ A種	※B種 ・ A種		
	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り（コンクリート面、モルタル面、プaster面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしみ止め ※改修標準仕様書 表 7. 9. 1 の工程 1 の下塗りをしみ止めシーラーとする ・							
	合成樹脂エマルジョンペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め ※改修標準仕様書 表 7. 9. 1 の工程 1 の下塗りをしみ止めシーラーとする ・							
	・ 高日射反射率塗料塗り 下地調整（改修標準仕様書 表 7. 2. 2） ・ RA種 ※RB種 ・ RC種							
	工程		塗料その他				塗付け量 （kg/m <sup>2</sup> ）	
			規格番号	規格名称	種類	等級		
	塗料塗り		JIS K 5675	屋根用高日射反射率塗料	2種	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級	塗料製造所の仕様による	

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	<一般事項> 1 適用範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修標準仕様書 8 章 耐震改修工事</li> <li>・改修標準仕様書において 8 章耐震改修工事以外の改修工事で 8 章を引用している部分</li> <li>・</li> </ul> <p>工事内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事</li> <li>・鉄骨ブレースの設置工事</li> <li>・柱補強工事（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法）</li> <li>・柱補強工事（鉄板巻き工法又は帯板巻き工法）</li> <li>・連続繊維補強工事</li> <li>・耐震スリット新設工事</li> <li>・土工事及び地業工事</li> <li>・</li> </ul>
	2 既存部分の処理等	<p>[8. 21. 2] [8. 22. 2] [8. 23. 2] [8. 24. 2] [8. 25. 2]</p> <p>既存構造体の撤去 撤去範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> <li>・</li> </ul> <p>はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> <li>・</li> </ul> <p>既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度及び範囲 [8. 21. 3] [8. 22. 3] [8. 23. 3]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存柱、梁面 <ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち継ぎ面の 15～30%程度に、平均深さ 2～5mm（最大 7mm）程度の凹を全体にわたってつける</li> <li>・</li> </ul> </li> <li>・既存壁 <ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち継ぎ面の 10～15%程度に、平均深さ 2～5mm（最大 7mm）程度の凹を全体にわたってつける</li> <li>・</li> </ul> </li> </ul> <p>既存杭の撤去等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・撤去範囲及び撤去方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> <li>・</li> </ul> </li> <li>・杭頭部の処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> <li>・</li> </ul> </li> <li>・既存杭の補強 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> <li>・</li> </ul> </li> <li>・既存杭の健全性を確認する試験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行う <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> <li>・</li> </ul> </li> <li>・行わない</li> </ul> </li> </ul>

章	項 目	特 記 事 項			
8 耐震改修工事	<鉄筋工事>	[8. 2. 1]			
	1 鉄筋	鉄筋の種類			
		種類の記号	呼び径 (mm)	備考	
		・ SD295	※D16 以下		
		・ SD345	※D19 以上		
	2 溶接金網	[8. 2. 2]			
		鉄線の形状等			
		種類	種類の記号	網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位
		・ 溶接金網			
		・ 鉄筋格子			
	3 鉄筋の継手及び定着	[8. 3. 4] [8. 4. 2] [8. 4. 3]			
		鉄筋の継手の方法等			
		部位	継手方法		呼び径 (mm)
		・ 柱、梁の主筋	・ ガス圧接 ・ 溶接継手	・ 機械式継手	※D19 以上
		・ 耐力壁の鉄筋	・ 重ね継手	・	
		・ 基礎、耐力スラブ、土圧壁	・ ガス圧接	・ 重ね継手	
		・ 上記以外 ( )	・ 重ね継手	・	
		継手位置			[8. 3. 4]
		・ 図示による			
		柱及び梁主筋の重ね継手の長さ			
		・ 図示による ( )			
		耐力壁の重ね継手の長さ			
		・ 図示による			
		鉄筋の定着長さ			[8. 3. 4]
		※図示による			
	4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む)	最小かぶり厚さ (目地底からの算出を行う)			[8. 3. 5]
		・ 図示による			
		・			
		耐久性上不利な箇所がある場合 (塩害等を受けるおそれのある部分等)			
		・ 適用箇所 ( )			
		・ 最小かぶり厚さに加える厚さ ( ) mm			
		・			

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	5 圧接完了後の試験	外観試験 [8. 3. 8] ※行う（全ての圧接部） 超音波探傷試験 [8. 3. 8] ※行う（全ての圧接部）
	6 機械式継手	適用箇所 ・ 図示による（ ） ・ H12 建告第 1463 号に適合する性能 [8. 4. 2] ・ A 級 ・ 機械式継手の種類 [8. 4. 2] ・ 図示による（ ） ・ 鉄筋相互のあき [8. 3. 5] [8. 4. 2] ・ 図示による（ ） ・ 施工完了後の継手部の試験 [8. 4. 2] ・ 図示による（ ） ・ 不合格となった継手部への措置 [8. 4. 2] ・ 図示による（ ） ・
	7 溶接継手	適用箇所 ・ 図示による（ ） ・ H12 建告第 1463 号に適合する性能 [8. 4. 3] ・ A 級 ・ 鉄筋相互のあき [8. 3. 5] [8. 4. 2] ・ 図示による（ ） ・ 溶接継手の工法 [8. 4. 3] ・ 図示による（ ） ・ 施工完了後の継手部の試験 [8. 4. 3] ・ 図示による（ ） ・ 不合格となった継手部への措置 [8. 4. 3] ・ 図示による（ ） ・
	8 割裂補強筋	[8. 21. 6] [8. 22. 7] 仕様 ・ 図示による（ ） ・

章	項 目	特 記 事 項																								
8 耐震改修工事	<コンクリート工事>	コンクリートの類別 [8. 1. 3] ※Ⅰ類（茨城県の指定工場であり、JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308 に適合したコンクリート）																								
	1 コンクリートの種類等	※普通コンクリート [8. 1. 3] [8. 1. 4] <table><tr><th>設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>スランプ (cm)</th><th>気乾単位容積 質量 (t/m<sup>3</sup>)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ 24</td><td>・ 15 又は 18 ・ 18</td><td>2.3 程度</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	気乾単位容積 質量 (t/m <sup>3</sup> )	適用箇所	・ 24	・ 15 又は 18 ・ 18	2.3 程度		・	・			・	・			・	・			・	・		
	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	気乾単位容積 質量 (t/m <sup>3</sup> )	適用箇所																						
	・ 24	・ 15 又は 18 ・ 18	2.3 程度																							
	・	・																								
	・	・																								
	・	・																								
	・	・																								
		構造体強度補正值 [8. 2. 5] ※改修標準仕様書 表 8. 2. 4 による																								
	2 セメント	[8. 2. 5] <table><tr><th>種 類</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメントの A 種</td><td>※下記以外全て ・</td></tr><tr><td>・ 高炉セメント B 種</td><td>・ 1FL より下部（立上がり部含む） ・</td></tr><tr><td>・ フライアッシュセメント B 種</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td></tr></table> <p>普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が 7 日目で 352J/g 以下、かつ 28 日目で 402J/g 以下のものとする</p>	種 類	適 用 箇 所	※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメントの A 種	※下記以外全て ・	・ 高炉セメント B 種	・ 1FL より下部（立上がり部含む） ・	・ フライアッシュセメント B 種	・	・	・														
種 類	適 用 箇 所																									
※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメントの A 種	※下記以外全て ・																									
・ 高炉セメント B 種	・ 1FL より下部（立上がり部含む） ・																									
・ フライアッシュセメント B 種	・																									
・	・																									
3 骨材	[8. 2. 5] <p>アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・ B（コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m<sup>3</sup> 以下）</p>																									
4 混和材料	[8. 2. 5] <p>・ 混和剤 混和剤の種類 ※改修標準仕様書 8. 2. 5 (4) (a) による</p> <p>・ 混和材 混和材の種類 ※改修標準仕様書 8. 2. 5 (4) (b) による</p>																									
5 構造体用モルタル	[8. 2. 6] <p>構造体用モルタル 圧縮強度（ ） フロー値（ ）</p>																									
6 ひび割れ誘発目地、打継目地	(6. 6. 4) (6. 8. 1) (9. 7. 3) <p>目地の寸法 ・ 標準仕様書 9. 7. 3 (1) (ア) ～ (イ) による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・ 図示による（ ）</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置 (6. 8. 1) ・ 図示による（ ）</p>																									

章	項 目	特 記 事 項							
8 耐震改修工事	7 コンクリートの 仕上り	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ [8. 1. 4] [8. 2. 7]							
		種別	適用箇所	・ A 種	※図示による ( )	・ B 種	※図示による ( )	・ C 種	※図示による ( )
		種別	適用箇所						
		・ A 種	※図示による ( )						
		・ B 種	※図示による ( )						
		・ C 種	※図示による ( )						
		コンクリートの仕上りの平たんさ [8. 1. 4] [8. 2. 7]							
		種別	適用箇所	・ a 種	※図示による ( )	・ b 種	※図示による ( )	・ c 種	※図示による ( )
	種別	適用箇所							
	・ a 種	※図示による ( )							
・ b 種	※図示による ( )								
・ c 種	※図示による ( )								
8 打増し厚さ (打放し仕上げ部)	打増し厚さ [8. 7. 8]								
	・ 打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) ・ 20mm ・ 打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ・ 10mm ・ 20mm								
9 型枠	打増し範囲 ・ 図示による ( )								
	せき板の材料及び厚さ (6. 8. 2) [8. 2. 7]								
	・ 合板 (※12mm ・ 断熱材を兼用した型枠材 (6. 8. 2) 使用箇所 ・ 図示による ( )								
	・ MCR工法用シート (6. 8. 2) 適用箇所 ・ 図示による ( )								
	打増し厚さ ・ 20 mm 打増し範囲 ・ 図示による ( )								
10 型枠の加工及び組立	スリーブの材種・規格等 [8. 2. 7]								
	・ 図示による ( )								
8 耐震改修工事	11 無筋コンクリート	シアコネクタをセパレータとして使用 [8. 7. 8]							
		使用箇所 ・ 図示による ( )							
	コンクリートの種類 [8. 11. 1]								
	※普通コンクリート								
	セメントの種類 [8. 2. 5]								
	※普通ポルトランドセメント、高炉セメント A 種、シリカセメント A 種又はフライアッシュセメントの A 種								
	・ 高炉セメント B 種								
	・ フライアッシュセメント B 種								
	設計基準強度 [8. 11. 1]								
	※18 (N/mm <sup>2</sup> )								
スランプ [8. 11. 1]									
※15cm 又は 18cm									
適用箇所 (6. 14. 1)									
※標準仕様書 6. 14. 1 (4) (ア)～(カ)による箇所									
・ 図示による ( )									



章	項 目	特 記 事 項																												
8 耐震改修工事	12 コンクリートの打込み工法等	<div style="text-align: right;">[8. 21. 8] [8. 23. 5]</div> <p>コンクリートの打設工法の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工法</th><th>工法の種類</th><th>部位</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・ 現場打ちコンクリート壁の増設工事</td><td>・ 工法指定なし</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )</td></tr> <tr> <td>・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )</td></tr> <tr> <td>・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )</td></tr> <tr> <td></td><td>・ 図示による (      )    ・</td></tr> <tr> <td rowspan="4">・ 柱補強工事 (溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法)</td><td>・ 工法指定なし</td><td>・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・</td></tr> <tr> <td>・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)</td><td>・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・</td></tr> <tr> <td>・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)</td><td>・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・</td></tr> <tr> <td></td><td>・ 図示による (      )    ・</td></tr> <tr> <td rowspan="3">・</td><td>・ 工法指定なし</td><td></td></tr> <tr> <td>・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)</td><td></td></tr> <tr> <td>・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	補強工法	工法の種類	部位	・ 現場打ちコンクリート壁の増設工事	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )	・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )	・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )		・ 図示による (      )    ・	・ 柱補強工事 (溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法)	・ 工法指定なし	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・	・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・	・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・		・ 図示による (      )    ・	・	・ 工法指定なし		・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)		・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)	
補強工法	工法の種類	部位																												
・ 現場打ちコンクリート壁の増設工事	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )																												
	・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )																												
	・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による (      )																												
		・ 図示による (      )    ・																												
・ 柱補強工事 (溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法)	・ 工法指定なし	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・																												
	・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・																												
	・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による (      )    ・																												
		・ 図示による (      )    ・																												
・	・ 工法指定なし																													
	・ 流込み工法    8. 21. 8 (1) (7)、(2)																													
	・ 圧入工法        8. 21. 8 (1) (4)、(3)																													

章	項 目	特 記 事 項																		
8 耐震改修工事	<鉄骨工事>	[8. 1. 5]																		
	1 鉄骨製作工場	建築基準法第 68 条の 25 に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 評価の区分 ※ (        ) グレード        ・ グレードの適用はしない ・ 監督員の承諾する国土交通大臣から認定を受けた工場																		
	2 鉄骨製作工場における施工管理技術者	※配置する [8. 1. 6]																		
	3 鋼材	[8. 2. 8] 種類等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所(主要な部分)</th><th>規格</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS 規格による    ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS 規格による    ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS 規格による    ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS 規格による    ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS 規格による    ・</td></tr></table> 溶融亜鉛めっき工法の適用箇所 ・ ・	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格			・ JIS 規格による    ・			・ JIS 規格による    ・			・ JIS 規格による    ・			・ JIS 規格による    ・			・ JIS 規格による    ・
	種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格																	
		・ JIS 規格による    ・																		
		・ JIS 規格による    ・																		
		・ JIS 規格による    ・																		
		・ JIS 規格による    ・																		
		・ JIS 規格による    ・																		
4 高力ボルト	[8. 2. 9] 高力ボルトの区分 ・ トルシア形高力ボルト ・ JIS 形高力ボルト ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト ・  ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による ・  摩擦面の処理方法等 溶融亜鉛めっき面以外 [8. 14. 2] ※改修標準仕様書 8. 14. 2 (1) による ・ 溶融亜鉛めっき面 [8. 20. 5] ・ ブラスト処理 (表面粗度 50 μmRz 以上) ・ ブラスト処理以外の特別な処理方法 ・ 図示による (        )        ・  ・ すべり試験 [8. 14. 2] ※すべり係数試験        ・ すべり耐力試験 試験の方法等    ・ 図示による (        )        ・																			
5 普通ボルト	(7. 2. 3) ボルト及びナットの材料 ・ 標準仕様書 表 7. 2. 3 (JIS 附属書品) 又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180 とする。 (ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4. 6 又は 4. 8 とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181 とする。 ナットの種類は、六角ナット-C とし、材料は鋼とする。) 座金 (7. 2. 3) ※JIS B 1256 による        ・																			

章	項 目	特 記 事 項											
8 耐震改修工事	5 普通ボルト	戻り止め ※二重ナット  ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による  (7.5.2) [8.13.2]											
	6 アンカーボルト	・ 構造用アンカーボルト 種類     ・ ABR400     ・ ABR490     ・ ・ 建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルト 種類     ・ SS400     ・ アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表 7.2.3 による ・ ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ※図示による  (7.2.4) (7.10.3) [8.13.2]											
	7 溶接材料	溶接材料 ※改修標準仕様書 8.2.10(1)(2) による ・ 改修標準仕様書 8.2.10(1)(2) 以外の溶接材料 材料及び使用箇所     ・ 図示による（     ）     ・  [8.2.10]											
	8 ターンバックル	種類 建築用ターンバックル ※羽子板ボルト     ・  建築用ターンバックル胴 ※割枠式     ・  ねじの呼び ・ 図示による（     ）     ・  (7.2.6) (7.2.6)											
	9 スタッド	種類等 <table><tr><th>呼び名</th><th>呼び長さ(mm)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ 16</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 19</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 22</td><td></td><td></td></tr></table>  (7.2.8)	呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所	・ 16			・ 19			・ 22	
呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所											
・ 16													
・ 19													
・ 22													
10 製作精度	鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6[鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※平 12 建告第 1464 号第二号イ(2) による ・ アンダーカットの寸法 ※平 12 建告第 1464 号第二号イ(3) による ・ 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」 による ・  [8.13.3]												

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	11 溶接技能者の技量付加試験	[8. 15. 3] 試験の要領 ・ 図示による ( )
	12 溶接接合	開先の形状 [8. 15. 4] ・ 図示による ・ エンドタブの切断する部分 [8. 15. 7] 切断する箇所 ・ 図示による ( ) 切断範囲 ・ エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から 5 mm 以下残して直線上に切断する。なお、切断せんが交差する場合は、交差部をアール状に加工する ・ 切断面の仕上げ ・ 改修標準仕様書 8. 15. 7 (1) (カ) (b) ② による ・ スカラップの形状 [8. 15. 7] ・ 図示による ・
	13 入熱、パス間温度の管理	適用箇所 ・ 図示による ( ) ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
	14 溶接部の試験	平 12 建告第 1464 号第二号に関する外観試験方法等 [8. 15. 12] ・ 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」 3. 5. 2 受入検査による ・ 抜き取り検査① ※抜き取り検査② JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] の附表 3「溶接」に関する試験方法等 ・ JASS 6 10. 4[受入検査]e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書 7. 6. 13 による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ・ 工場溶接の場合 ※全数 ・ 工事現場溶接の場合 ※全数

章	項 目	特 記 事 項																																													
8 耐震改修工事	15 錆止め塗装	塗料の範囲 [8. 17. 2] 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・ 図示による (            )            ・ 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・ 図示による (            )            ・  塗料の種別 [7. 3. 2] [8. 17. 4] 下記以外の鉄鋼面は、標準仕様書 18 章 塗装工事による ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別 ※A 種            ・  ・ 耐火被覆が接着する面の塗料の種別 ・																																													
	16 耐火被覆	種類、材料、工法等 [8. 18. 2～8. 18. 8] <table><tr><th>種類</th><th>材料・工法</th><th>性能（耐火時間）</th><th>適用箇所（部位・部分）</th></tr><tr><td rowspan="5">・ 耐火材吹付け</td><td>・ 乾式吹付け ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 半乾式吹付け ロックウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 湿式ロック ウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ 耐火板張り</td><td>・ 繊維混入けい酸 カルシウム板</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ 耐火材巻付け</td><td>・ 高断熱ロック ウール</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ ラス張り モルタル塗り</td><td>—</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 耐火塗料</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）	・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付け ロックウール			・ 半乾式吹付け ロックウール			・ 湿式ロック ウール			・			・			・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸 カルシウム板			・			・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロック ウール			・			・ ラス張り モルタル塗り	—			・ 耐火塗料			
	種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）																																											
	・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付け ロックウール																																													
		・ 半乾式吹付け ロックウール																																													
・ 湿式ロック ウール																																															
・																																															
・																																															
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸 カルシウム板																																														
	・																																														
・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロック ウール																																														
	・																																														
・ ラス張り モルタル塗り	—																																														
・ 耐火塗料																																															
17 建方精度	※JASS6 付則 6[鉄骨精度基準]付表 5[工事現場]による (7. 10. 2)																																														
18 アンカーボルトの設置等	構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7. 10. 3) ・ 図示による (            )            ・  構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7. 10. 3) ・ 図示による (            )            ・  建方（及び付属鉄骨）用アンカーボルトの形状及び寸法 (7. 10. 3) ・ 図示による (            )            ・  建方（及び付属鉄骨）の保持及び埋込み工法 (7. 10. 3) 種別            ・ A 種            ・ B 種  柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 (7. 10. 3) 厚さ            ・ 種別            ※A 種            ・ B 種																																														

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	<あと施工アンカー工事> 1 あと施工アンカー	<div style="text-align: right;">[8. 2. 4]</div> <p>材料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属系アンカー（耐震補強用）             <ul style="list-style-type: none"> <li>引張耐力 ※図示による（ ）</li> <li>せん断耐力 ※図示による（ ）</li> </ul> </li> <li>アンカー本体の径及び有効埋込み長さ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> </ul> </li> <li>セット方式 ※本体打込み式改良型</li> <li>接合筋の種類、径、長さ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> </ul> </li> <li>性能確認試験             <ul style="list-style-type: none"> <li>試験方法及び試験数 図示による（ ）</li> </ul> </li> <li>・接着系アンカー             <ul style="list-style-type: none"> <li>引張耐力 ※図示による（ ）</li> <li>せん断耐力 ※図示による（ ）</li> </ul> </li> <li>アンカーの種類 ※カプセル方式 回転・打撃型</li> <li>接着剤の品質 ※有機系 無機系</li> <li>アンカー筋の径及び埋込み長さ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による</li> </ul> </li> <li>アンカー筋の種類             <ul style="list-style-type: none"> <li>・改修標準仕様書 表 8. 2. 1 の異形棒鋼 全ねじボルト</li> </ul> </li> <li>アンカー筋の新設壁内への定着長さ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による</li> </ul> </li> <li>性能確認試験             <ul style="list-style-type: none"> <li>試験方法及び試験数 図示による（ ）</li> </ul> </li> </ul>
	2 穿孔	<div style="text-align: right;">[8. 12. 1]</div> <p>穿孔機械          （金属検知により電源供給が停止できる付属装置等を使用する）          ※ハンマードリル          ・コアドリル</p> <div style="text-align: right;">[8. 12. 4]</div> <p>埋込み配管等の探査方法          ・鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出を行う          鉄筋探査機の探査方式          ・電磁波レーダー法（3D表示対応型）          ・電磁波レーダー法又は電磁誘導法          ・はつりだしによる          ・</p>
	3 施工確認試験	<div style="text-align: right;">[8. 12. 7]</div> <p>試験方法          ※引張試験機による引張試験          確認強度          ・図示による（ ）</p>

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	<グラウト工事>	[8. 2. 12]
	1 柱底均しモルタル及びグラウト材	<div> <div>           ・ 柱底均しモルタル            ※無収縮モルタル            無収縮モルタルの材料、調合等            ※改修標準仕様書 8. 2. 12 (1) (ア) から (エ) による         </div> <div>           ・ グラウト材            無収縮グラウト材の材質等、品質及び試験方法は、建築材料等品質性能表による。         </div> </div> <div> <div>[8. 2. 12]</div> <div>[8. 2. 12]</div> </div>

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	<連続繊維補強工事>	
	1 連続繊維シート巻き	<p>連続繊維の材料 [8. 2. 13]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( ) .</li> </ul> <p>引張強度、ヤング係数（含浸硬化後）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( ) .</li> </ul> <p>工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※（一財）日本建築防災協会の評価を受けた工法</li> </ul> <p>下地調整 [8. 24. 6]</p> <p>ひび割れ部の改修工法の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 樹脂注入工法      ・ Uカットシーリング材充填工法      ・ シール工法</li> </ul> <p>柱及び梁の隅角部の面取り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※工法の評価内容による</li> </ul> <p>連続繊維補強材の強度試験 [8. 24. 6]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引張強度試験 <ul style="list-style-type: none"> <li>※JIS A 1191（コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法）による</li> <li>・ 試験数量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( ) .</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 付着強度試験 <ul style="list-style-type: none"> <li>※JIS A 6909（建築用仕上塗材）による</li> <li>・ 試験数量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( ) .</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>補強後の仕上げ [8. 24. 7]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( ) .</li> </ul>



章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	<耐震スリット新設工事> 1 耐震スリット	幅及び深さ [8. 25. 2] ・図示による ( ) 設置箇所 ・図示による ( )
	2 施工前埋込み配管等の 探査	既存撤去部の配管等の探査方法 [8. 12. 4] ・鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う 鉄筋探査機の探査方式 ・電磁波レーダー法（3D表示対応型） ・電磁波レーダー法又は電磁誘導法 ・はつりだしによる ・
	3 充填材の挿入及び周囲 補修等	・耐火材 [8. 25. 2] 使用箇所及び仕様 ・図示による ( ) ・ ・遮音材 [8. 25. 2] 使用箇所及び仕様 ・図示による ( ) ・ 撤去部の補修 ※撤去材と同一で補修 ・

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	<土工事及び地業工事>	埋戻し及び盛土 [8. 28. 3]
	1 埋戻し及び盛土	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A 種 適用箇所 ( )</li> <li>・ B 種 適用箇所 ( )</li> <li>・ C 種 適用箇所 ( ) 土質 ( ) 受渡場所 ( )</li> <li>・ D 種 適用箇所 ( )</li> <li>・ 材料 ( ) 工法 ( )</li> </ul>
	2 山留めの撤去	鋼矢板の抜き跡の処理 [8. 28. 3] ※直ちに砂で充填する  山留めの存置 [8. 28. 3] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行う (存置範囲 ※図示による ( ))</li> <li>・</li> </ul>
	3 杭地業	支持層の位置及び土質 (基礎ぐいの先端の位置含む) [8. 28. 4] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( )</li> </ul> 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 [8. 2. 14] [8. 28. 4] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( )</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 [8. 28. 4]</li> <li>・ 図示による ( )</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杭の継手の箇所数、材料、工法等 [8. 2. 14]</li> <li>・ 図示による ( )</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杭の溶接継手 [8. 28. 4]</li> <li>技能資格者の技量</li> <li>溶接部の確認</li> <li>・ 図示による ( )</li> <li>・ 図示による ( )</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杭頭の処理等 [8. 28. 4]</li> <li>・ 処理しない</li> <li>・ 処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杭頭の中詰め材料 (4. 3. 8)</li> <li>・ 基礎のコンクリートと同調合のもの</li> </ul> 杭の精度 [8. 28. 4] 水平方向への位置ずれ ・ 杭径の 1/4 かつ 100 mm 以下 杭の傾斜 ・ 1/100 以内  記録する施工状況等 [8. 28. 4] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( )</li> </ul>
	4 砂利地業	材料 (茨城県の指定工場であること) [8. 28. 4] ※再生クラッシャーラン <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 切込砂利又は切込碎石</li> </ul> 砂利厚さ [8. 28. 4] ※60 mm  施工範囲 [8. 28. 4] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示による ( )</li> </ul>

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	5 捨コンクリート地業	<div> <div>厚さ</div> <div>※50 mm</div> <div>・</div> <div>[8. 28. 4]</div> </div>
		<div> <div>施工範囲</div> <div>・ 図示による ( )</div> <div>[8. 28. 4]</div> </div>
		<div> <div>設計基準強度</div> <div>※18N/mm<sup>2</sup></div> <div>・</div> <div>[8. 11. 1]</div> </div>
		<div> <div>スランプ</div> <div>※15cm 又は 18cm</div> <div>[8. 11. 1]</div> </div>

章	項 目	特 記 事 項																																																																																														
9 環境配慮改修工事	1 石綿含有分析調査等	<div>[9.1.1] [9.1.3~9.1.5]</div> <div>事前調査・作業計画の作成及び作業基準の遵守・表示及び掲示・官公庁への手続き 改修特記仕様書第1章 1-17 石綿事前調査・表示等による</div> <div>・分析による石綿含有建材の調査 分析対象     アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、     トレモライト 分析方法</div> <table><tr><th rowspan="2">材料名</th><th colspan="2">定性分析方法</th><th colspan="2">定量分析方法</th></tr><tr><th>JIS A 1481-1</th><th>JIS A 1481-2</th><th>JIS A 1481-3</th><th>JIS A 1481-4</th></tr><tr><td>・</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td>・</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td>・</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr></table> <div>サンプル数           1 箇所あたり 3 サンプル 採取箇所           ・ 図示           ・</div> <div>・石綿粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点</div> <table><tr><th>適用</th><th>測定名称</th><th>測定時期</th><th>測定場所</th><th>測定点 (各処理作業室ごと)</th></tr><tr><td>・</td><td>測定 1</td><td rowspan="3">処理作業前</td><td>処理作業室内</td><td>・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 2</td><td>調査対象室外部の付近</td><td>・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 3</td><td>処理作業室内</td><td>・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 4</td><td rowspan="3">処理作業中</td><td>セキュリティゾーン入口</td><td>・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 5</td><td>集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td><td>出口吹出し風速 1m/s 以下の位置 ・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 6</td><td>処理作業室外 ・ 施工区画周辺 ・ 敷地境界</td><td>・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 7</td><td>処理作業後 (シート養生中)</td><td>処理作業室内</td><td>・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 8</td><td>処理作業後 シート</td><td>処理作業室内</td><td>・ 計 点</td></tr><tr><td>・</td><td>測定 9</td><td>撤去後 1 週間以降</td><td>調査作業室外部の付近</td><td>・ 計 点</td></tr></table> <div>測定方法</div> <div>・自動測定器による測定</div> <table><tr><th>測定名称</th><th>測定方法</th></tr><tr><td>・測定 4 ・測定 5</td><td>粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定</td></tr></table> <div>・JIS K 3850-1 に基づいた測定</div> <table><tr><th>測定名称</th><th>ノズルノフィル 直径 (mm)</th><th>試料の吸引 流量 (L/min)</th><th>試料の吸引 時間 (min)</th></tr><tr><td>・測定 4、5</td><td>25</td><td>5</td><td>30</td></tr><tr><td>・測定</td><td>47</td><td>10</td><td>120</td></tr><tr><td>・測定</td><td>47</td><td>10</td><td>240</td></tr><tr><td>・測定</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	材料名	定性分析方法		定量分析方法		JIS A 1481-1	JIS A 1481-2	JIS A 1481-3	JIS A 1481-4	・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各処理作業室ごと)	・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	・ 計 点	・	測定 2	調査対象室外部の付近	・ 計 点	・	測定 3	処理作業室内	・ 計 点	・	測定 4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	・ 計 点	・	測定 5	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速 1m/s 以下の位置 ・ 計 点	・	測定 6	処理作業室外 ・ 施工区画周辺 ・ 敷地境界	・ 計 点	・	測定 7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・ 計 点	・	測定 8	処理作業後 シート	処理作業室内	・ 計 点	・	測定 9	撤去後 1 週間以降	調査作業室外部の付近	・ 計 点	測定名称	測定方法	・測定 4 ・測定 5	粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定	測定名称	ノズルノフィル 直径 (mm)	試料の吸引 流量 (L/min)	試料の吸引 時間 (min)	・測定 4、5	25	5	30	・測定	47	10	120	・測定	47	10	240	・測定			
材料名	定性分析方法			定量分析方法																																																																																												
	JIS A 1481-1	JIS A 1481-2	JIS A 1481-3	JIS A 1481-4																																																																																												
・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																												
・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																												
・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																												
適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各処理作業室ごと)																																																																																												
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	・ 計 点																																																																																												
・	測定 2		調査対象室外部の付近	・ 計 点																																																																																												
・	測定 3		処理作業室内	・ 計 点																																																																																												
・	測定 4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	・ 計 点																																																																																												
・	測定 5		集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速 1m/s 以下の位置 ・ 計 点																																																																																												
・	測定 6		処理作業室外 ・ 施工区画周辺 ・ 敷地境界	・ 計 点																																																																																												
・	測定 7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・ 計 点																																																																																												
・	測定 8	処理作業後 シート	処理作業室内	・ 計 点																																																																																												
・	測定 9	撤去後 1 週間以降	調査作業室外部の付近	・ 計 点																																																																																												
測定名称	測定方法																																																																																															
・測定 4 ・測定 5	粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																																																															
測定名称	ノズルノフィル 直径 (mm)	試料の吸引 流量 (L/min)	試料の吸引 時間 (min)																																																																																													
・測定 4、5	25	5	30																																																																																													
・測定	47	10	120																																																																																													
・測定	47	10	240																																																																																													
・測定																																																																																																

章	項 目	特 記 事 項
9 環境配慮改修工事	2 石綿除去工事共通事項	<p>※作業計画の作成及び作業基準の遵守 石綿が含有されている建築物等を解体等する際は、大気汚染防止法・石綿障害予防規則に基づき、作業の開始前に作業計画を定め、監督員に提出すること。また、作業にあたっては、当該作業計画を遵守すること。</p> <p>※作業完了報告 特定粉じん排出等作業が完了した際は、大気汚染防止法に基づき、その結果を監督員に提出すること。</p>
	3 石綿含有建材の処理 (1)	<p>石綿含有建材の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石綿含有吹付け材の除去 除去対象範囲   ・ 図示   ・ 除去工法           ※改修標準仕様書 9.1.3(2) (7) による   ・ 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置     ※湿潤化   ・ 固形化</li> <li>・除去した石綿含有吹付け材等の処分     ・ 埋立処分（管理型最終処分場）     ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設）</li> <li>・石綿含有保温材の除去 除去対象範囲   ・ 図示   ・ 除去工法           ・ 手ばらし   ・ 手ばらし以外（破砕して除去） 除去した石綿含有保温材等の飛散防止     ※湿潤化   ・ 固形化</li> <li>・除去した石綿含有保温材の処分     ・ 埋立処分（管理型最終処分場）     ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設）</li> <li>・石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外）の除去 除去対象範囲   ・ 図示   ・ 除去した石綿含有成形板の処分     ・ 石綿含有せっこうボード       ※埋立処分（管理型最終処分場）     ・ 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板     ・ 埋立処分（安定型最終処分場）     ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設）</li> <li>・石綿含有成形板（石綿含有けい酸カルシウム板第1種）の除去 除去対象範囲   ・ 図示   ・ 養生方法           ・ ビニールシート等による養生を行う   ・ 除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種成形板の処分     ・ 埋立処分（安定型最終処分場）     ・ 中間処理（溶融施設または無害化処理施設）</li> </ul>

章	項 目	特 記 事 項
9 環境配慮改修工事	4 石綿含有建材の処理 (2)	<p>・石綿含有建築用仕上塗材又は石綿含有成形板（下地調整材）の除去</p> <p>除去対象範囲           ・図示           ・</p> <p>着工前の試験施工    ※行う           ・行わない</p> <p>除去工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法</li> <li>・集じん装置併用手工具ケレン工法</li> <li>・集じん装置付き高圧水洗工法（15MPa 以下、30～50MPa 程度）</li> <li>・集じん装置付き超高圧水洗工法（100MPa 以上）</li> <li>・剥離剤併用超音波ケレン工法</li> <li>・剥離剤併用手工具ケレン工法</li> <li>・剥離剤併用高圧水洗工法（30～50MPa 程度）</li> <li>・剥離剤併用超高圧洗浄工法（100MPa 以上）</li> <li>・超音波ケレン工法（HEPA フィルター付き掃除機併用）</li> </ul> <p>（1）作業区画や立入禁止範囲を明確に定め、石綿くずや石綿を含有する飛沫の飛散等を防止するために、作業区画の床面、壁面及び天井面（3面）にプラスチックシート（ビニルシート）等による養生を行うこと。作業場所の隔離は、湿潤状態に保ちながら作業を行う。</p> <p>（2）剥離剤を使用する工法では、ジクロロメタン等の有害性の高い化学物質を使用しない。剥離剤使用量 0.6～1.0kg/m<sup>2</sup></p> <p>（3）水を使って除去する工事の場合には、未処理の廃水が流出・地下浸透しないようすべて回収しなければならない。回収した廃水は、凝集沈殿後に上澄み水をろ過処理する等により、適切に処理した上で放流すること。</p> <p>除去した石綿含有建築用仕上塗材の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埋立処分（安定型最終処分場）</li> <li>・埋立処分（管理型最終処分場）</li> <li>・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）</li> </ul>

章	項 目	特 記 事 項									
9 環境配慮改修工事	5 リフラクトリーセラミックファイバーの処理	除去処理対象物 除対象範囲 除去方法 処分									
	6 PCB 含有シーリング材処分	<div>[1. 3. 12]</div> <table><tr><th>種類</th><th>採取する部位・箇所数</th><th>備考</th></tr><tr><td>・PCB 含有シーリング分析調査（第一次判定）</td><td>部位 箇所数：</td><td></td></tr><tr><td>・PCB 含有シーリング分析調査（第二次判定）</td><td>部位 箇所数：</td><td></td></tr></table>	種類	採取する部位・箇所数	備考	・PCB 含有シーリング分析調査（第一次判定）	部位 箇所数：		・PCB 含有シーリング分析調査（第二次判定）	部位 箇所数：	
	種類	採取する部位・箇所数	備考								
・PCB 含有シーリング分析調査（第一次判定）	部位 箇所数：										
・PCB 含有シーリング分析調査（第二次判定）	部位 箇所数：										
7 屋上緑化改修工事	<div>[9. 6. 2] [9. 6. 3]</div> <div>植栽基盤及び材料 ・屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の樹種並びに種類等 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 （品質・性能及び試験方法）</div> <div>工法 1-1 適用区分による風圧力の（ かん水装置 既存保護層の撤去 新植した芝及び地被類の枯補償の期間</div>										

章	項 目	特 記 事 項													
9 環境配慮改修工事	8 透水性アスファルト舗装改修工事	[9. 7. 2～9. 7. 5] [9. 7. 9]													
		既存舗装の撤去及び再利用 ※図示 ・													
		路床													
		路床の材料													
		<table><tr><th>種別</th><th>材料</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>・ 盛土</td><td>・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土</td><td>・ 図示 ・</td></tr><tr><td>・ 凍上抑制層</td><td>・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 ・</td><td>・ 図示 ・</td></tr><tr><td>・ フィルター層</td><td>・ 砂 ・</td><td>・ 図示 ・</td></tr></table>	種別	材料	厚さ (mm)	・ 盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示 ・	・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 ・	・ 図示 ・	・ フィルター層	・ 砂 ・	・ 図示 ・	
		種別	材料	厚さ (mm)											
		・ 盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示 ・											
		・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂 ・	・ 図示 ・											
		・ フィルター層	・ 砂 ・	・ 図示 ・											
		・ 路床安定処理													
安定処理の方法 ・ 置き換え工法 ・ 安定処理工法															
路床安定処理用添加材料															
種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメント B 種 ・ フライアッシュセメント B 種 ・ 生石灰 ( ・ 特号 ・ 1 号 ) ・ 消石灰 ( ・ 特号 ・ 1 号 ) ・															
添加量 ・ kg (目標 CBR ・ 3 以上 ・ )															
目標 CBR を満足する添加量の確認方法 ・ 安定処理土の CBR 試験 ・															
試験															
砂の粒度試験 ・ 行う ・ 行わない															
路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・ 行う ( 箇所 ) ・ 行わない															
現場 CBR 試験 ・ 行う ( 箇所 ) ・ 行わない															
路床締固め度の試験 ・ 行う ( 箇所 ) ・ 行わない															
六価クロム溶出試験 ・ 行う ・ 行わない															
路盤															
路盤の構成及び厚さ ・ 図示 ・															
路盤材料 (改修標準仕様書 表 9. 7. 3 による種別)															
<table><tr><th colspan="2">種 別</th></tr><tr><td rowspan="2">碎石</td><td>・ クラッシャーラン</td></tr><tr><td>・ 粒度調整碎石</td></tr><tr><td rowspan="2">再生材</td><td>・ 再生クラッシャーラン</td></tr><tr><td>・ 再生粒度調整碎石</td></tr><tr><td rowspan="3">鉄鋼スラグ</td><td>・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ</td></tr><tr><td>・ 粒度調整鉄鋼スラグ</td></tr><tr><td>・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</td></tr></table>		種 別		碎石	・ クラッシャーラン	・ 粒度調整碎石	再生材	・ 再生クラッシャーラン	・ 再生粒度調整碎石	鉄鋼スラグ	・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ	・ 粒度調整鉄鋼スラグ	・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ		
種 別															
碎石	・ クラッシャーラン														
	・ 粒度調整碎石														
再生材	・ 再生クラッシャーラン														
	・ 再生粒度調整碎石														
鉄鋼スラグ	・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ														
	・ 粒度調整鉄鋼スラグ														
	・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ														
舗装の構成 ・ 図示 ・															
開粒度アスファルト混合物等の抽出 ・ 行う ・ 行わない															
舗装の平たん性 ※著しい不陸がないもの ・															